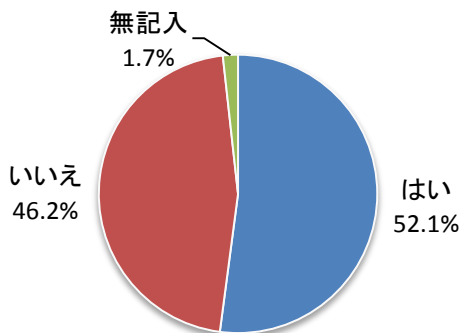


## 第4章 結果の概要

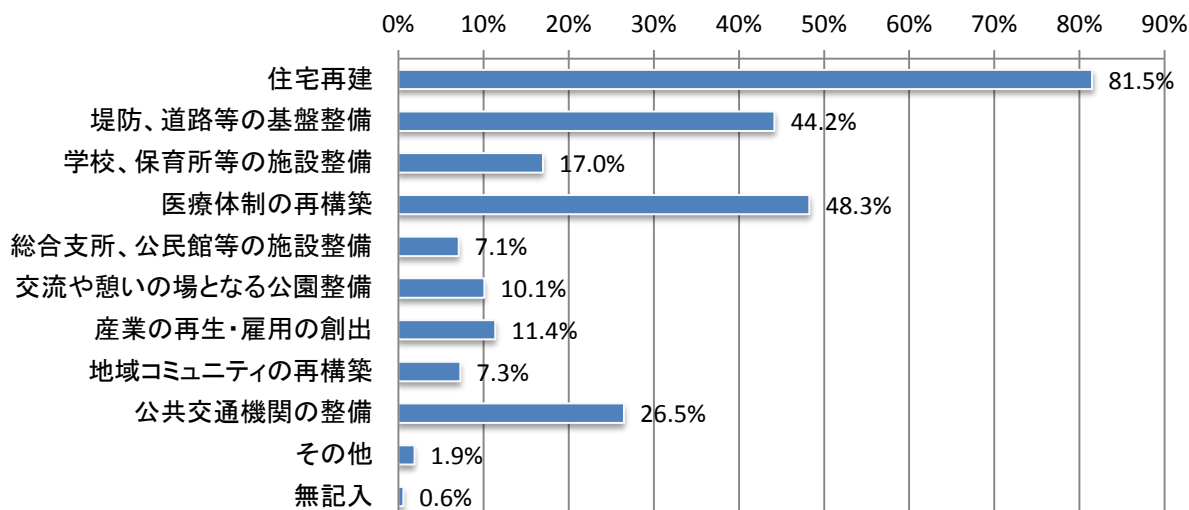
※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

### 1 東日本大震災に伴う復旧・復興事業について

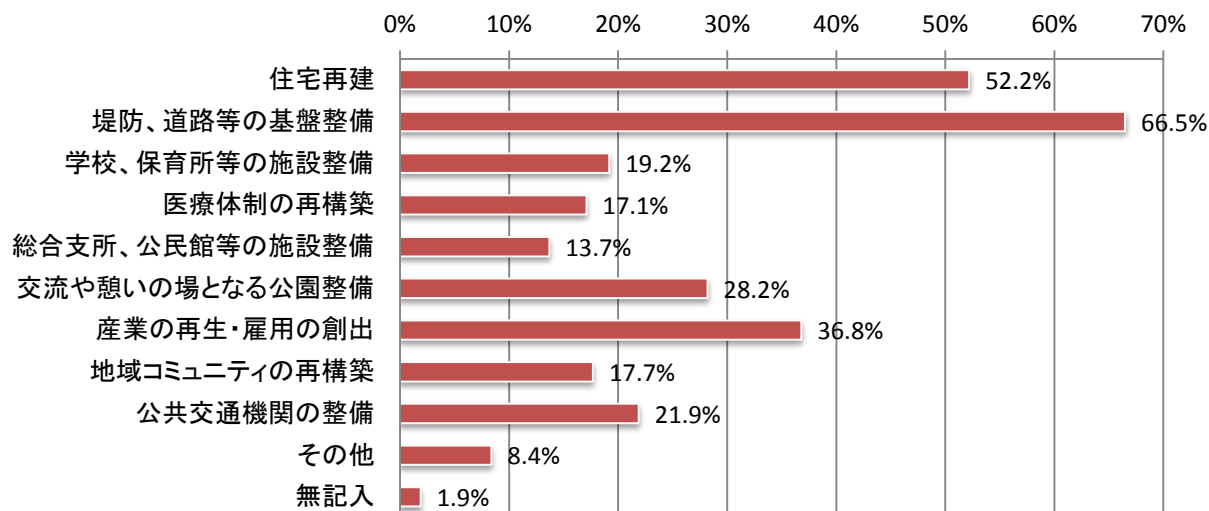
問1 石巻市の復旧・復興が進んでいると感じていますか。1つ選んでください。



問2 問1で「はい」と答えた方に質問します。進んでいると感じている主な事業は何ですか。当てはまるものを全て選んでください。

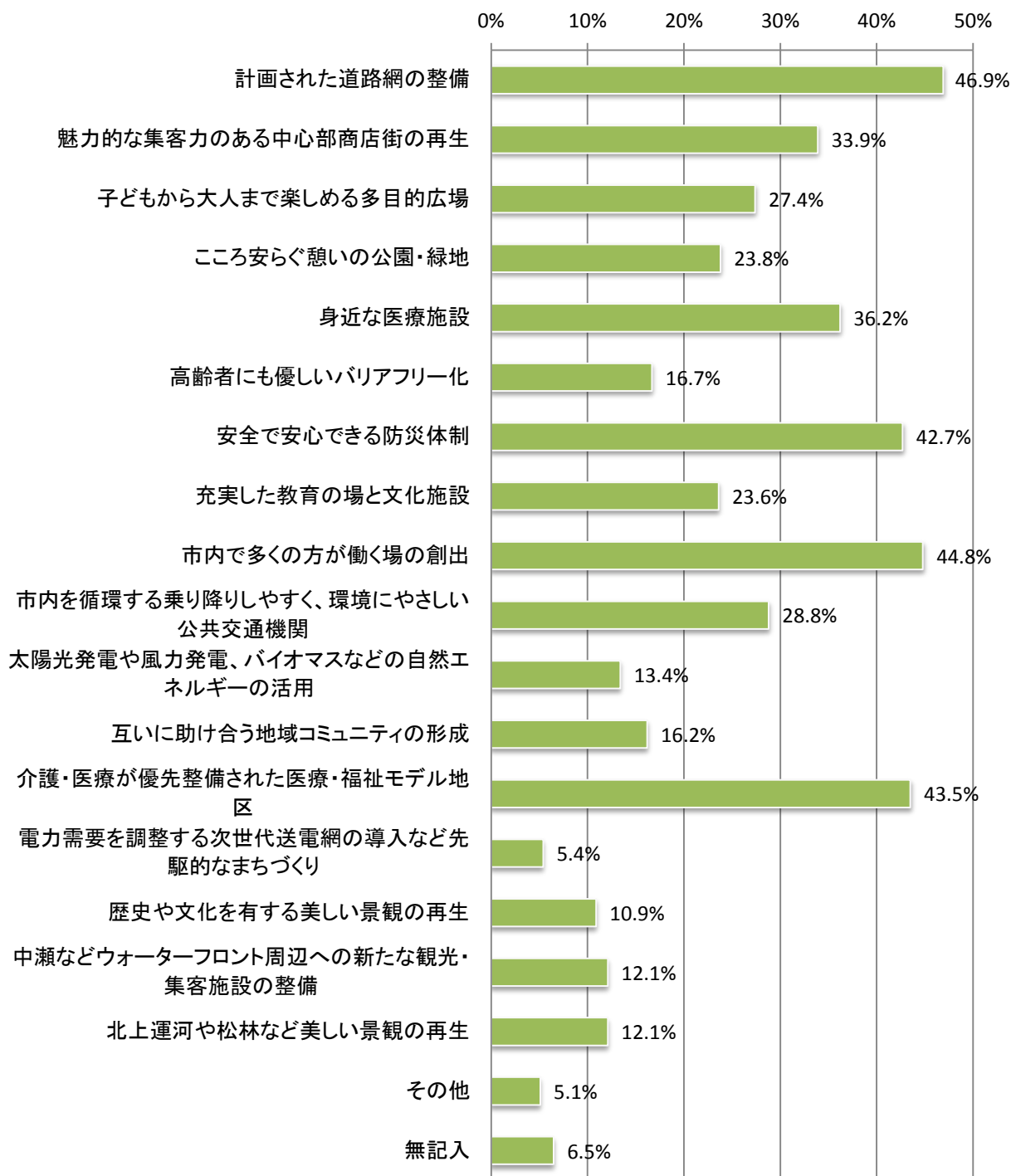


問3 問1で「いいえ」と答えた方に質問します。遅れていると感じている主な事業は何ですか。当てはまるものを全て選んでください。



復旧・復興が「進んでいる」と回答した方が前回（平成26年度）調査時（28.6%）より大きく上昇し全体の半数以上となりました。その主な理由として「住宅再建」を挙げる方が81.5%と多くを占めていますが、「遅れている」と感じている事業においても52.2%と前回調査時（56.3%）とほぼ横ばいで高い割合を占めています。また、今後本格化していく「堤防、道路等の基盤整備」などハード面の復興事業に対する関心が高い状況にあり、「産業の再生・雇用の創出」との相乗効果を図りながら安全・安心のまちづくりに取り組む必要があると考えます。

問4 石巻市の将来の再生・発展のために望むまちづくりについてお聞かせください。  
特に重要と思うものを5つ選んでください。



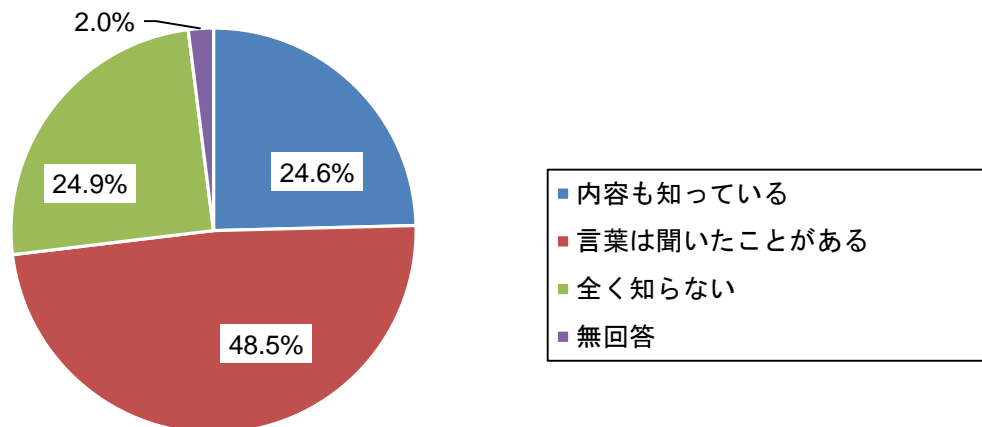
「計画された道路網の整備」「安全で安心できる防災体制」「市内で多くの方が働く場の創出」「介護・医療が優先整備された医療・福祉モデル地区」を望む回答が多く、石巻市の再生・発展のためには、主に道路、防災、雇用、医療・福祉が重要と考えられていることがうかがえます。

また、自由意見では、お年寄りや自転車利用者にとって安全な道路の整備、冠水対策や避難道路の整備、子どもやお年寄り、障がい者にとって住みやすい環境整備といった意見のほか、各地区の均衡ある発展、子どもから大人まで楽しめる文化・スポーツ・娯楽施設の整備・充実を求める声がありました。

## 2 男女共同参画について

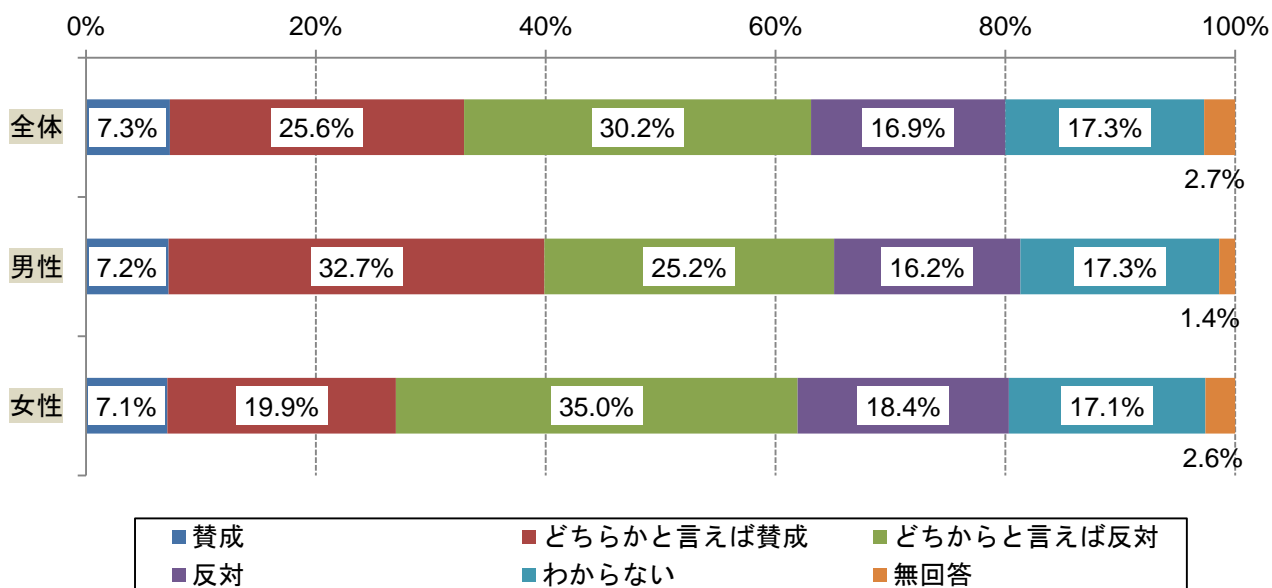
「男女共同参画」についてお聞きします。

問5 あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)



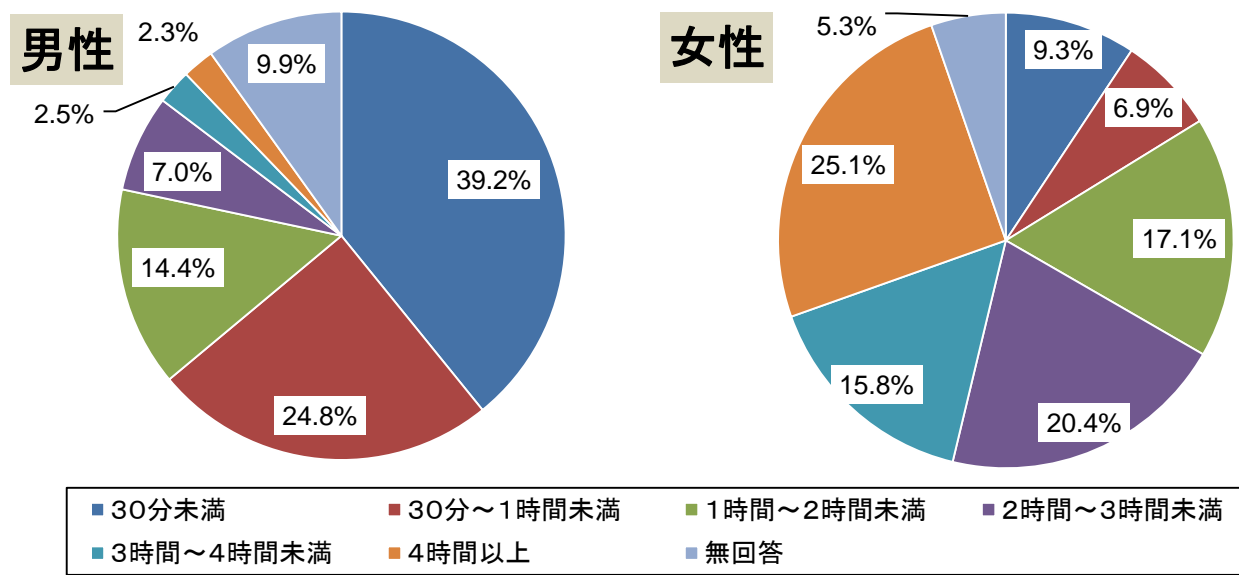
「男女共同参画社会」という言葉の認知度は、「言葉は聞いた事がある」が48.5%と最も多く、「内容も知っている」と合わせた認知度は、73.1%となっています。しかし、「全く知らない」と回答した方も24.9%となっているため、今後もさらに啓発に努めていく必要があると考えています。

問6 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。(〇は1つ)



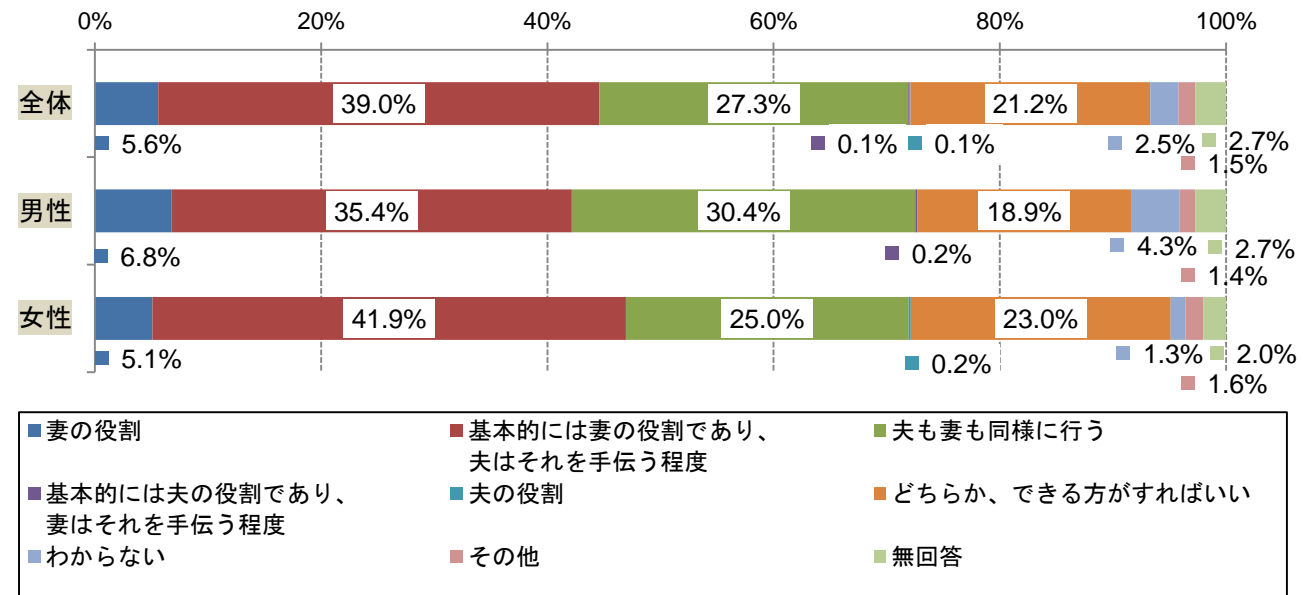
「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方については、「反対」「どちらかと言えば反対」が全体で47.1%と、約半数の回答があるものの、「賛成」「どちらかと言えば賛成」が全体で32.9%となっています。「反対」「どちらかと言えば反対」の意見について男女別に見ると、男性が41.4%に対し、女性が53.4%と12ポイントも多く、男女の考えに相違があることがうかがえます。

問7 あなたの1日の家事（介護・看護・育児含む）時間はどのくらいですか。（○は1つ）



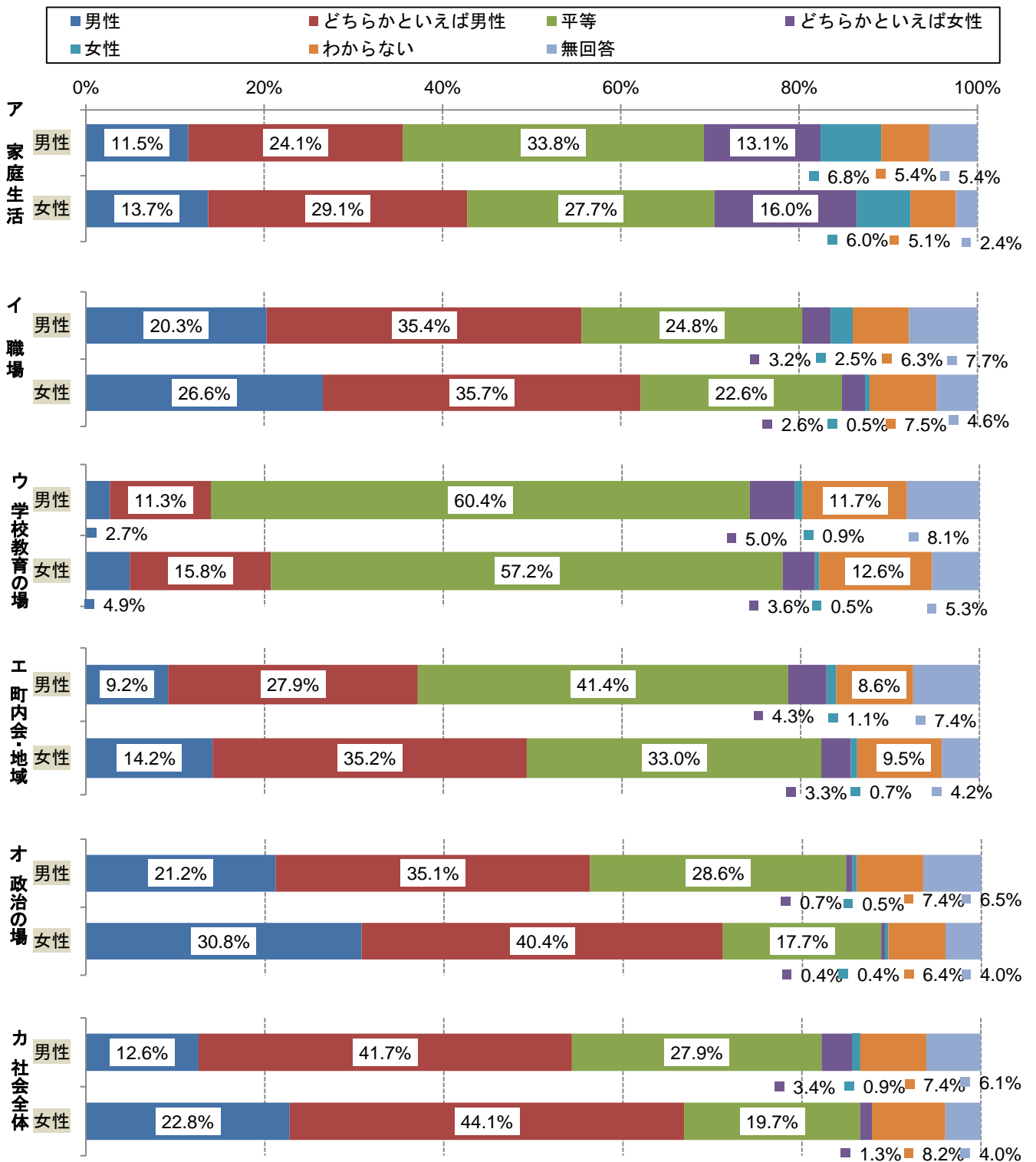
女性の家事時間は、1時間未満が16.2%に対し、男性では64.0%となっています。逆に、3時間以上の家事時間を見ると、女性は40.9%に対し、男性は、4.8%と非常に偏っています。この結果から家事時間については、いまだに女性の方が長いことがうかがえます。

問8 家庭での育児や家事は、誰の役割と思いますか。（○は1つ）



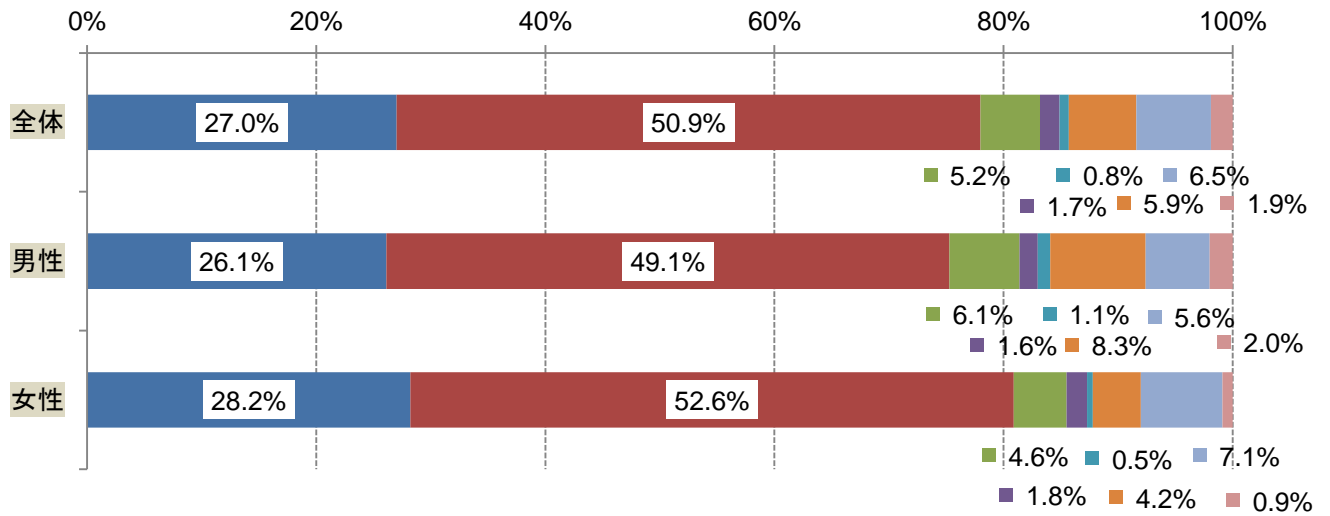
家庭での育児や家事の役割は、男女ともに「基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」との回答が39.0%と多く、未だに固定的役割分担意識（男性・女性という性別を理由に役割を固定的に分けること。）が根強く残っていることがうかがえます。しかし、「夫も妻も同様に言う」と回答した方も27.3%となっていることから、性別を問わず役割を決めることの意識を醸成する必要があると考えます。

問9 あなたは、男女の地位について、どちらが優遇されていると思いますか。(それぞれ○は1つ)



男女の地位について「学校教育の場」では、「平等」と回答している人の割合が男女共に50%を超えています。その他の項目では、男性が優遇されていると回答している割合が高く、また男性よりも女性でその実感が強くなっていることも示されています。

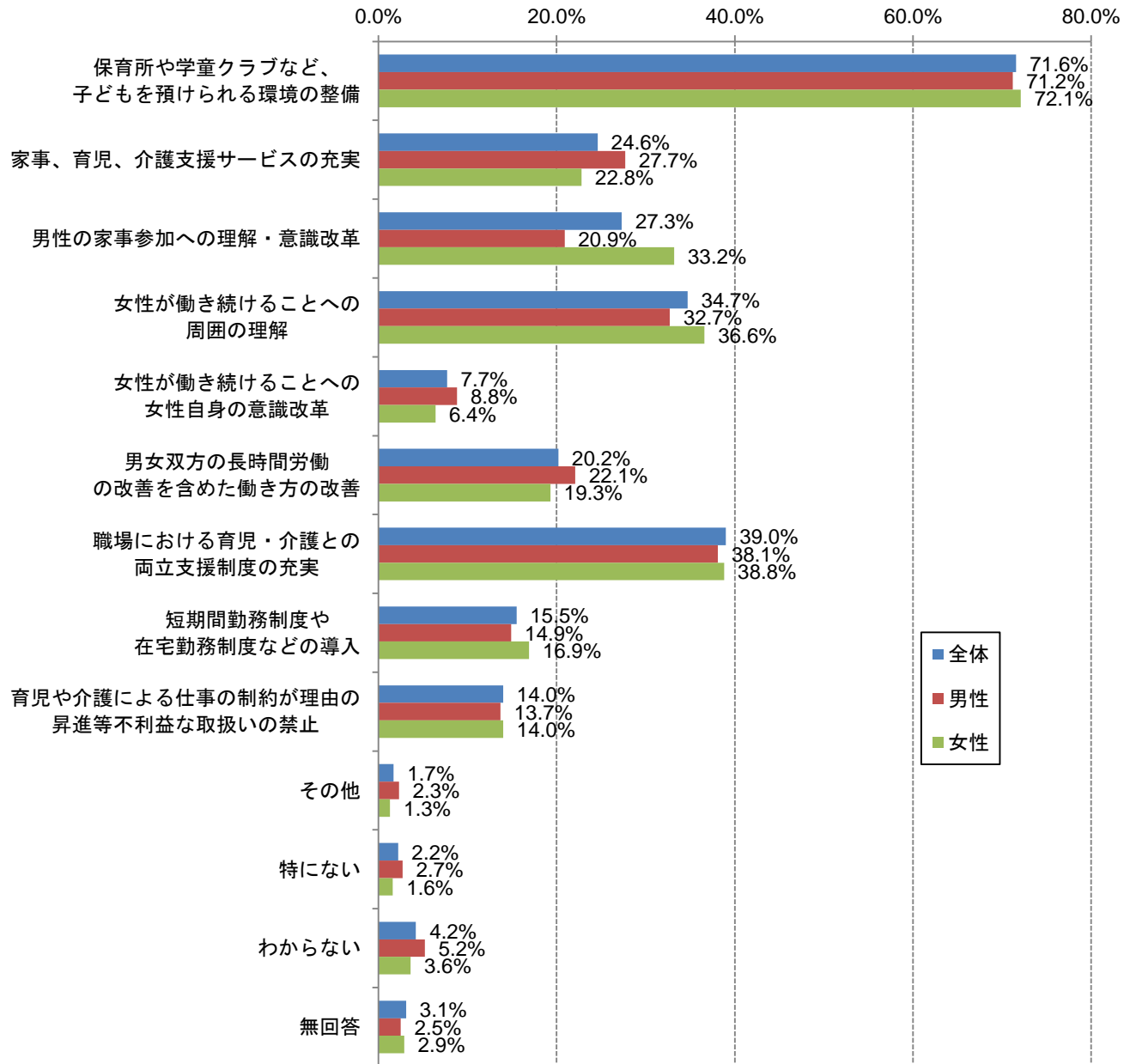
問10 女性が働くことについて、あなたはどうお考えですか。(〇は1つ)



- 子どもができて、ずっと働き続ける方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ育児が一段落したら再び働く方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、家事・育児に専念する方がよい
- 結婚を機会に仕事をやめ、家事・育児に専念する方がよい
- 女性は働かない方がよい
- わからない
- その他
- 無回答

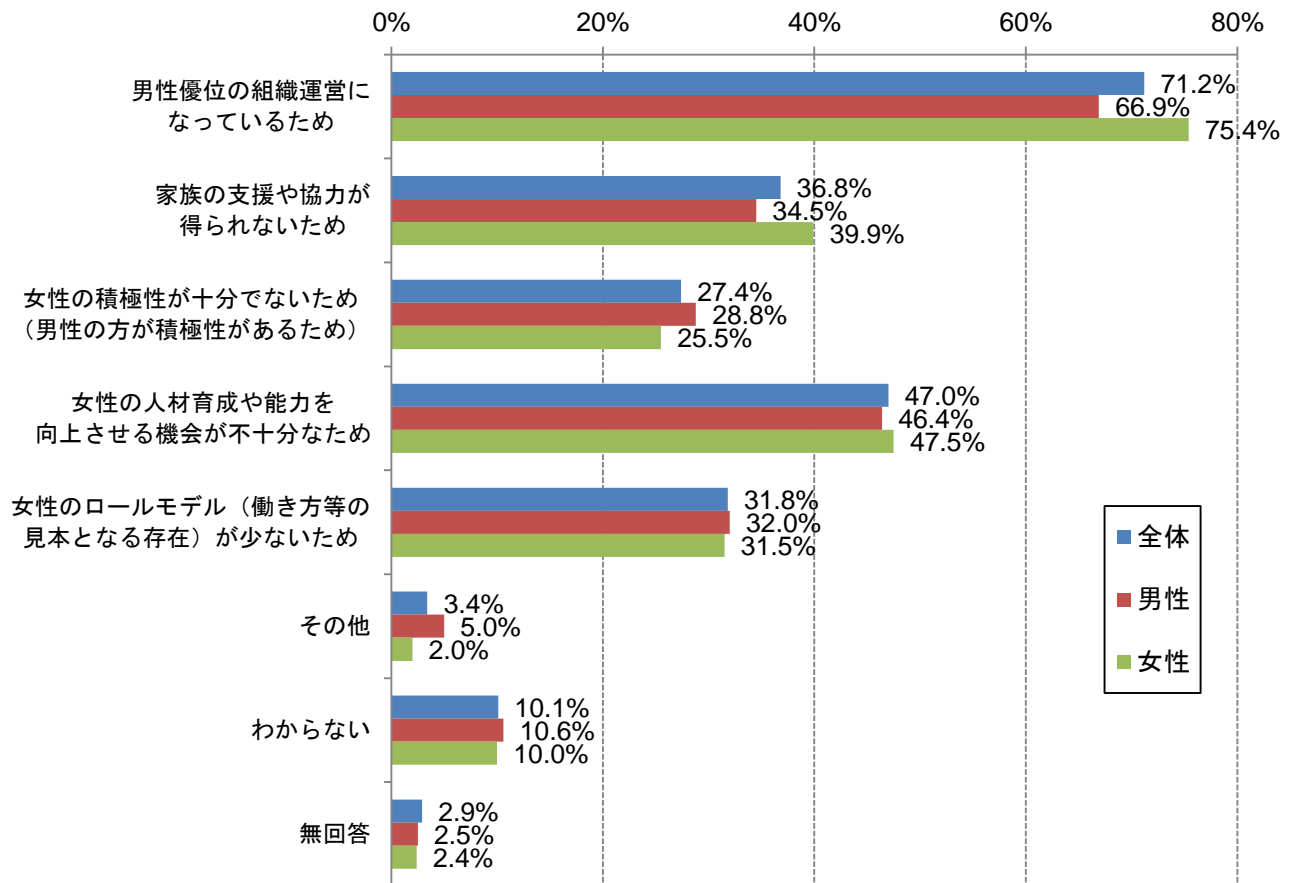
女性が働くことについては、男女ともに「子どもができたなら仕事をやめ育児が一段落したら再び働く方がよい」と回答した方が最も多く、全体で50.9%となっています。また、子育ては女性の役割と考えている方が男性よりも女性に多くいることもうかがえます。一方で、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」と回答している男女の割合も全体で27.0%となっており、女性の就業については、77.9%の方が賛成していることがうかがえます。

問11 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(特に当てはまると思うものを3つまで○)



女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の回答が全体で71.6%と最も多く、男女問わず子育てにおける環境の整備を望んでいることがうかがえます。また、女性から「男性の家事参加への理解・意識改革」を求める回答も多くあり、子どもの保育環境の充実に加え、職場や家庭での役割分担の意識改革の取り組みも求められていることがうかがえます。

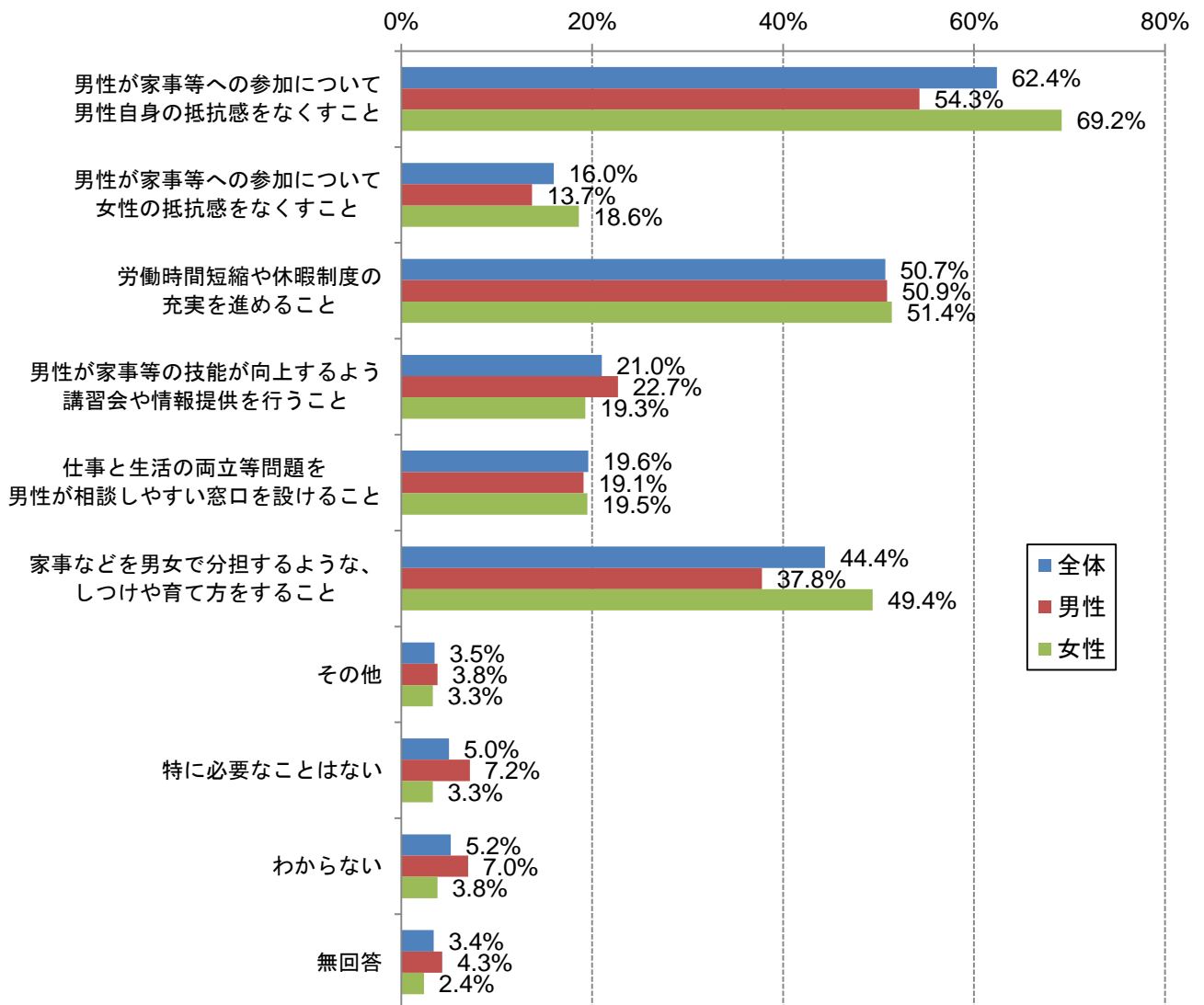
問12 政治や企業などにおいて、政策や方針を決定する立場や指導的地位に女性が少ないという状況があります。あなたは、その理由は何だと思えますか。(特に当てはまると思うものを3つまで○)



政策や方針を決定する立場や指導的地位に女性が少ない理由については、「男性優位の組織運営になっているため」が71.2%と最も多く、次いで「女性の人材育成や能力を向上させる機会が不十分なため」の47.0%となっています。このことから、男性が優位となっている構造の変革を促すとともに、女性の人材育成等が重要であると考えます。

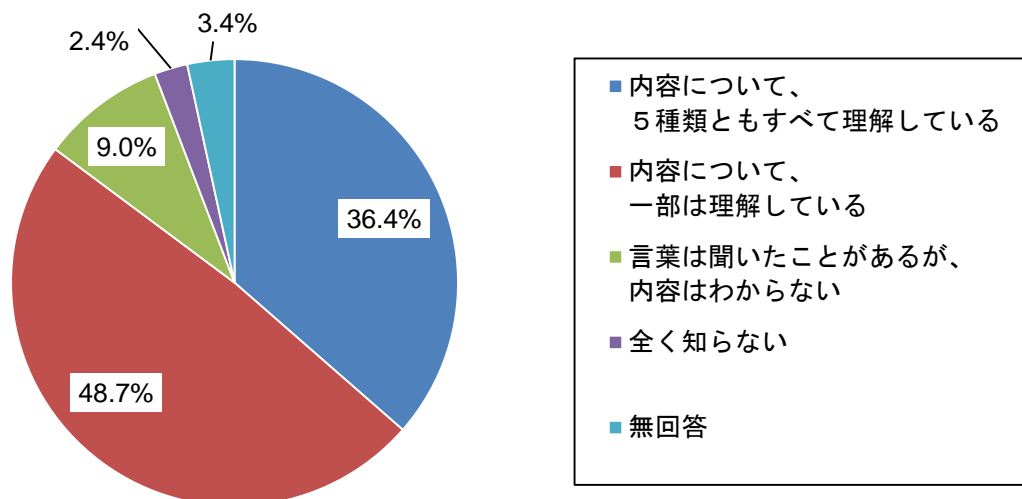


問13 あなたは今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(特に当てはまると思うものを3つまで○)



男性が家事・子育てなどに積極的に参画していくためには、「男性自身の抵抗感をなくすこと」の回答が男性の54.3%に対し、女性は69.2%と14.9ポイントも多く感じていることがうかがえます。また、「労働時間の短縮や休暇制度の充実を進めること」との回答も半数近くあったことから、意識改革だけでなく、男性中心型労働慣行の変革やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けた制度の充実を図る必要があると考えます。

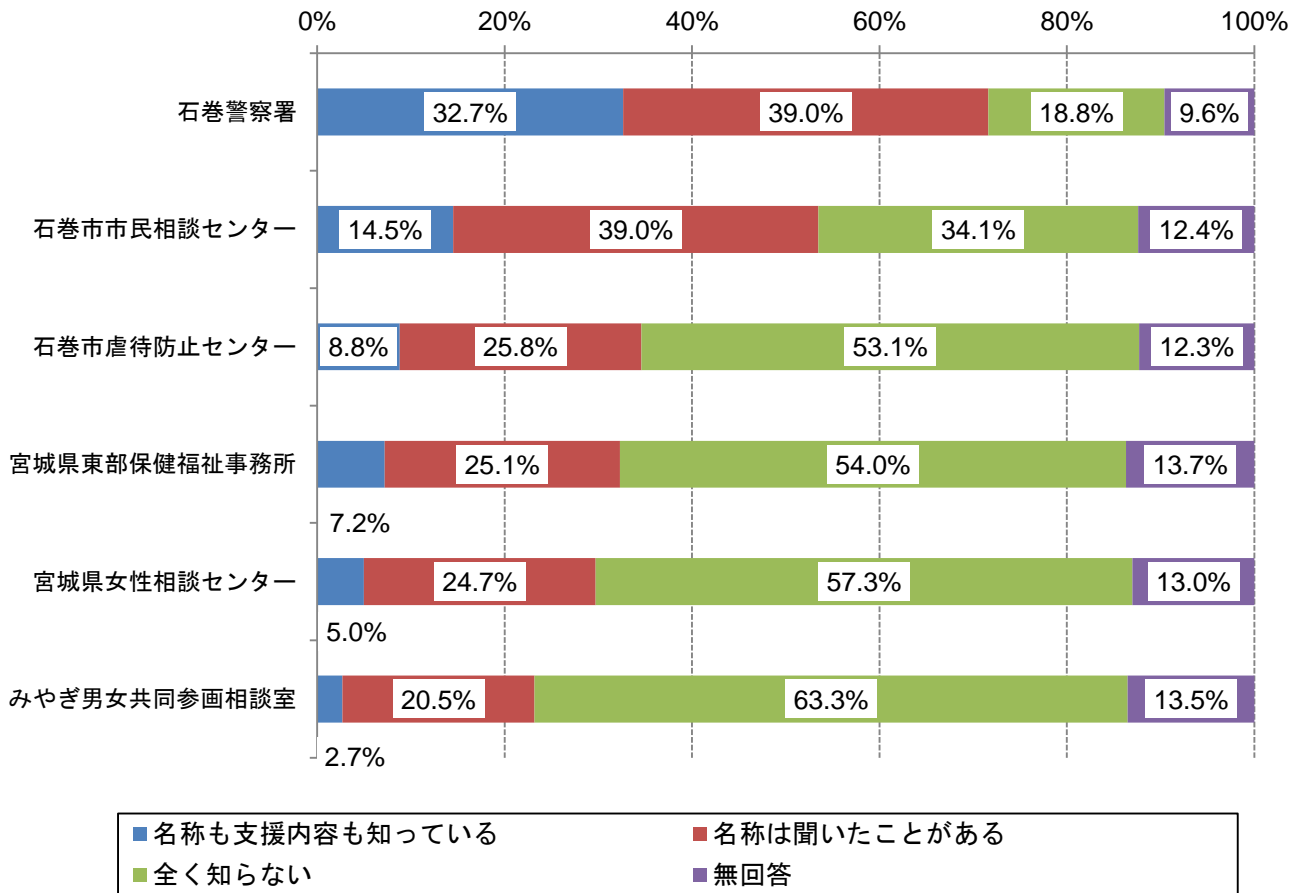
問14 あなたは、DV（配偶者等からの暴力）の内容について正しく理解していますか。（○は1つ）  
【DVの種類・・・身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力】



DV（ドメスティック・バイオレンス）について正しく理解しているかとの回答では、「5種類ともすべて理解している」が36.4%、「一部は理解している」が48.7%となっています。身体的暴力だけがDVではないことを、正しく理解していただくため、より一層の啓発に努める必要があると考えます。

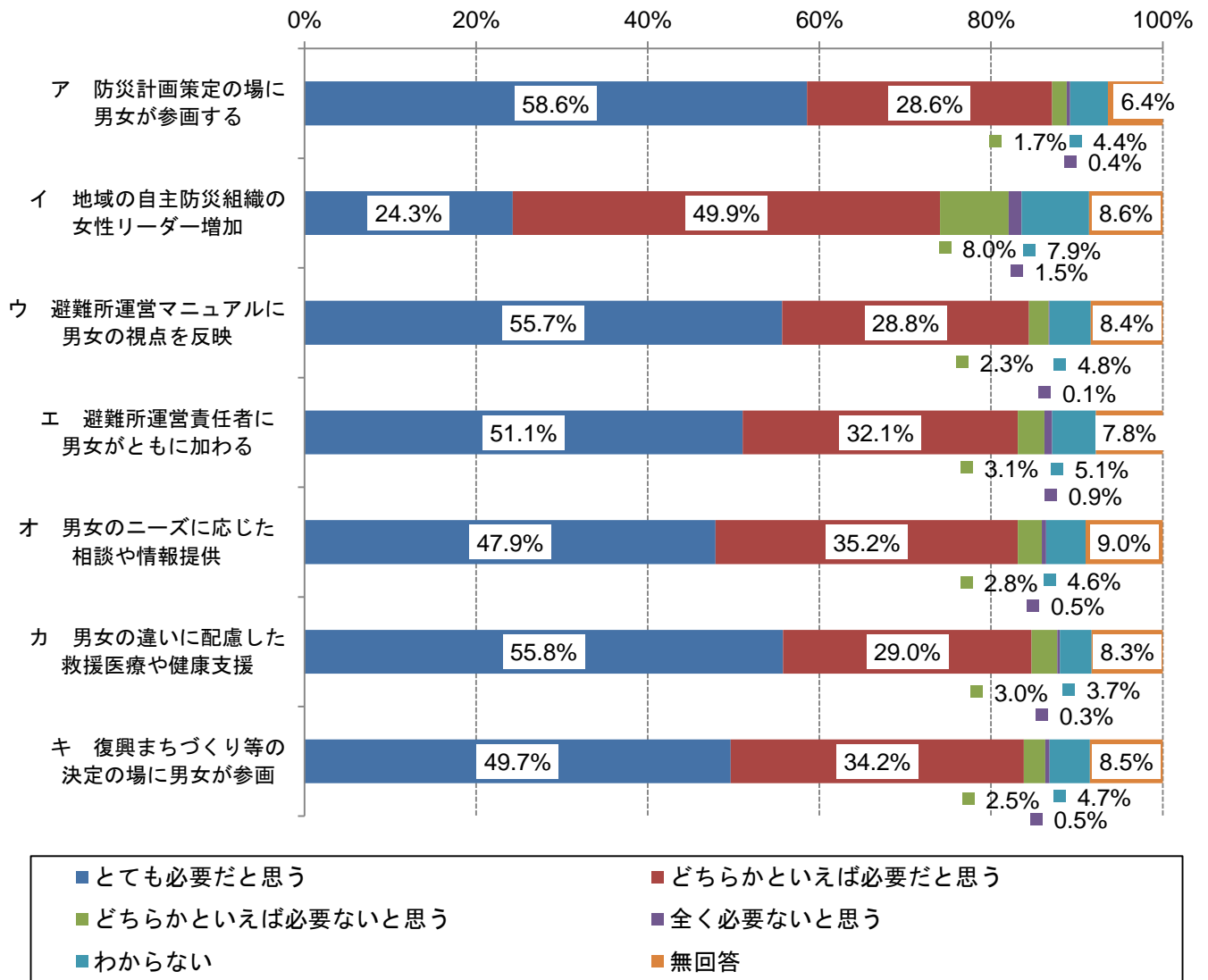
- 身体的暴力・・・殴る、蹴る、髪を引っ張り引きずり回す、タバコの火を押しつける。
- 精神的暴力・・・何でも従えという、人前で侮辱する、怒鳴りつける、外出を禁止する。
- 性的暴力・・・気が進まない性行為を強要する、避妊に協力しない。
- 社会的暴力・・・生活や人間関係に対して無視する、実家や友達の付き合いなどを制限する。
- 経済的暴力・・・生活費を渡さない、外で働くことを妨害する、洋服などを買わせない。

問15 あなたは、セクシャル・ハラスメントまたはDV（配偶者等からの暴力）被害にあった時の相談窓口（ア～カ）を知っていますか。ア～カのそれぞれについてお答えください。（それぞれ〇は1つ）



セクシャル・ハラスメントまたはDVの相談窓口の認知度は、身近にある石巻警察署でも「名称も支援内容も知っている」は全体で32.7%となっています。また、石巻市市民相談センターは14.5%、石巻市虐待防止センターでは8.8%と、かなり認知度が低く、今後も相談窓口の周知徹底を図る必要があると考えます。

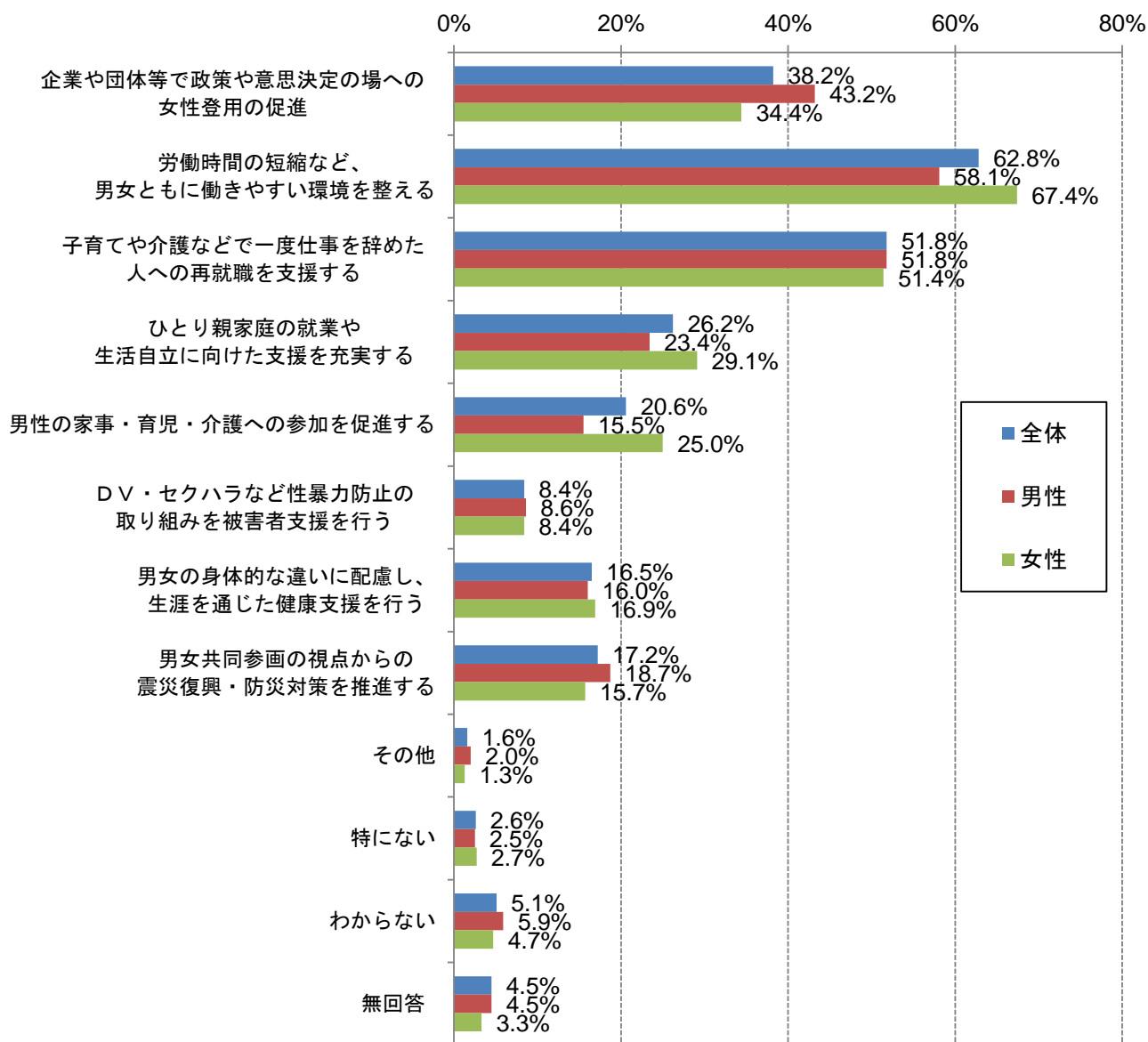
問16 東日本大震災時、男女のニーズの違いを踏まえた対策が十分に行われなかったという問題がありました。今後の災害に備えて、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。ア～キのそれぞれについてお答えください。（それぞれ〇は1つ）



性別による違いに配慮した取り組みの必要性については、全ての項目において必要だと思う方が70%を超えており、震災復興が進む中、防災やあらゆる分野において、男女共同参画の視点が必要とされています。また、『防災計画の策定の場に男女がともに参画する』については、約9割の方が必要であると回答しており、施策の根底である計画の策定や意思決定の場に男女がともに参画できる体制づくりが強く求められています。

問17 男女共同参画社会(※)を実現するために、今後、石巻市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。(特に必要だと思うものを3つまで○)

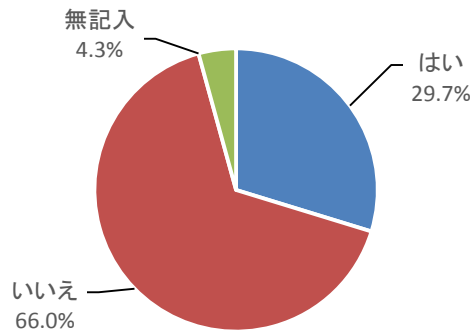
※男女共同参画社会とは、男性も女性も一人の人間として、多様な生き方を選択し、性別に関わりなく様々な分野の活動に参画する社会のこと。



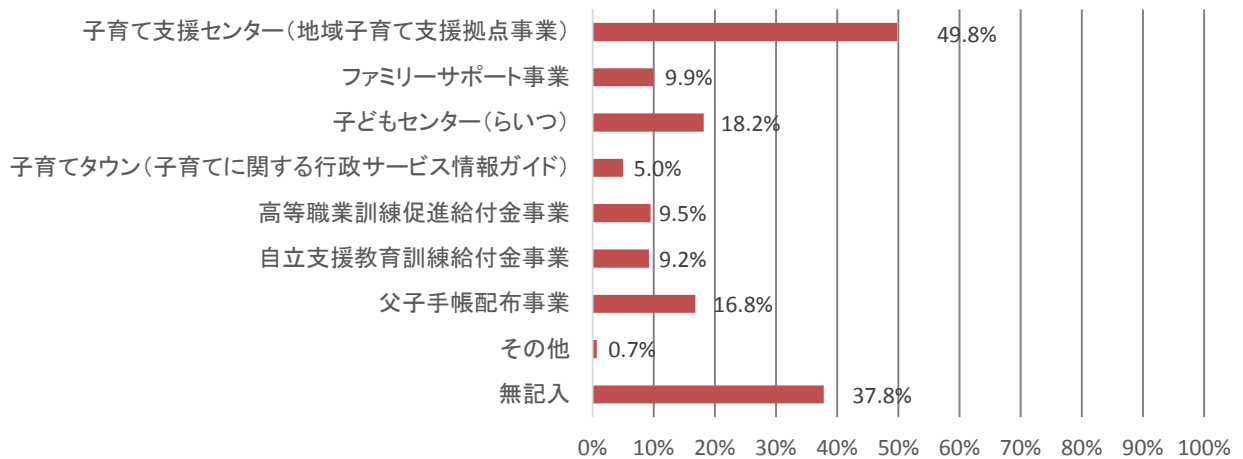
男女共同参画社会を実現するために、市が特に力を入れていくべきこととして、「労働時間の短縮や保育・介護サービスなど、男女ともに働きやすい環境を整える」が全体で62.8%となっており、特に、女性の方が9.3%ポイントも多く感じているようです。男女ともにワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向け、官民一体となって取り組んでいく必要があると考えます。

### 3 子育て支援について

問18 現在、子育てに関わる機会や、地域等で子どもに関わる機会がありますか

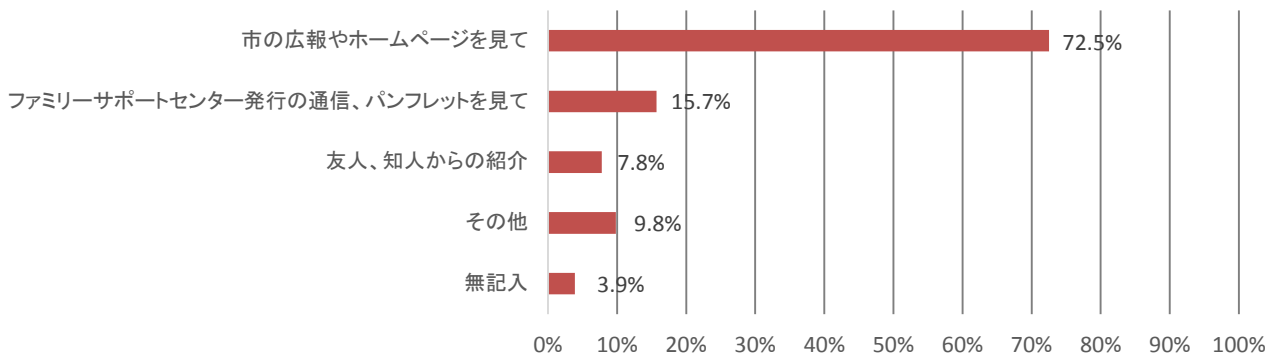


問19 次の子育て支援事業を知っていますか。当てはまるものを全て選んでください。



子育て支援事業について、子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）を知っている方が49.8%と最も多く、次いで子どもセンター（らいつ）18.2%、父子手帳配布事業16.8%となっており、そのほかの事業はあまり知られていないことから、各種支援事業や給付金事業等について、なお一層周知を図る必要があると考えます。

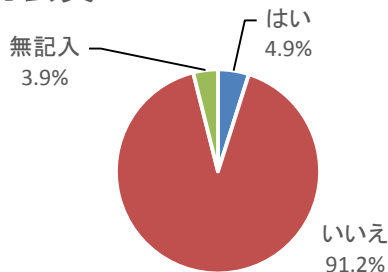
問20 ファミリーサポート事業をどこで知りましたか。当てはまるものを全て選んでください。



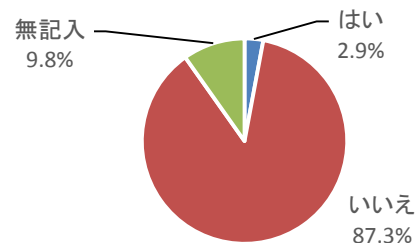
ファミリーサポート事業を知った方法として、72.5%が「市の広報やホームページ」からと回答しています。ファミリーサポートセンター発行の“ふあみさぼ通信”やパンフレットの配布で知った人は15.7%と低く、広報の仕方を工夫する必要があると思われる結果となりました。

問21 ファミリーサポート事業は協力会員（預かる人）と利用会員（預けたい人）の相互援助の事業ですが、どちらかの会員として事業を利用したことがありますか。

協力会員



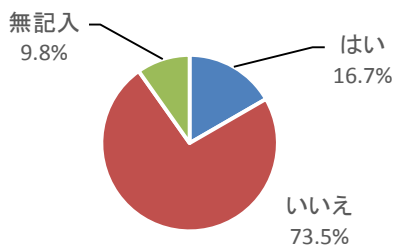
利用会員



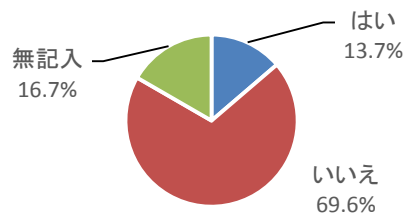
問19でファミリーサポート事業を知っていると回答した方が9.9%と認知度は低く、さらに実際に利用した協力会員は4.9%、利用会員は2.9%となっており、事業について浸透していない現状がうかがえます。今後はより一層会員を増やすための周知や、利用しやすい工夫を施していくことが必要と考えます。

問 2 2 ファミリーサポート事業の協力会員・利用会員になりたいと思いますか。

協力会員

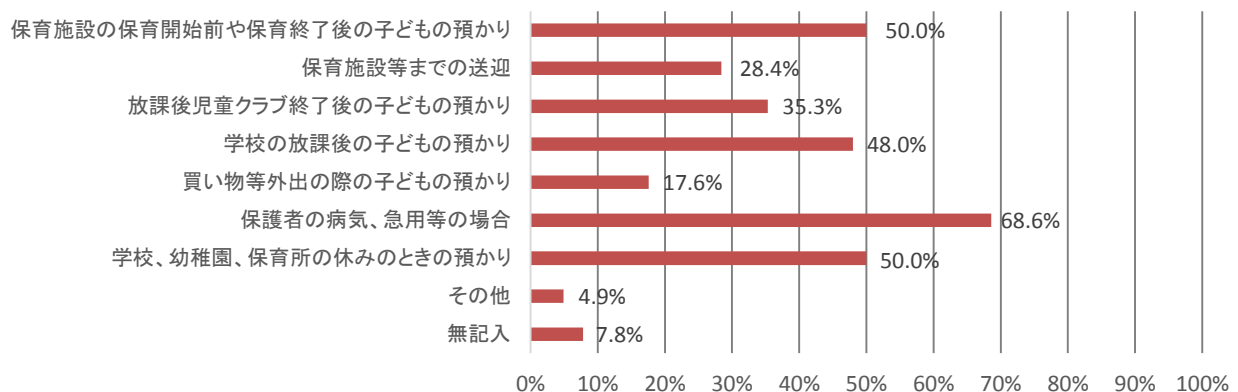


利用会員



会員になりたいと回答した方は協力会員で16.7%、利用会員では13.7%にとどまり、会員を希望しないと答えた方は両会員で70%前後となっており、事業内容の説明や相談等の丁寧な対応が必要であると考えます。

問 2 3 ファミリーサポート事業をどのような時に利用できるるとよいと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。

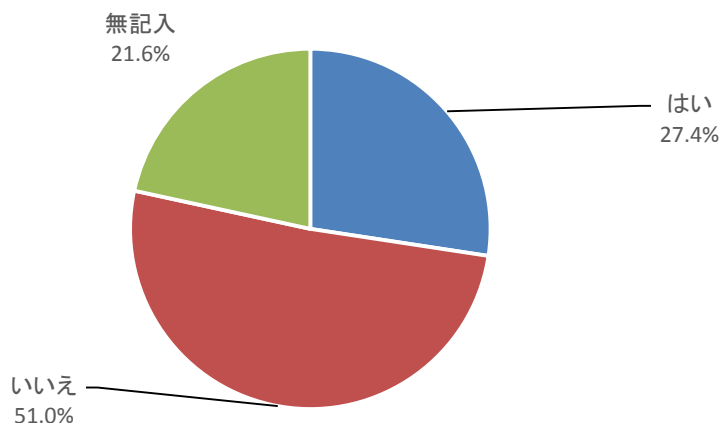


「保護者の病気、急用等の場合」が68.6%と最も多く、次いで「保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり」「学校、幼稚園、保育所の休みの時の預かり」が各50%となっており、利用内容の周知を徹底することで、子育て支援事業として有効であると考えます。

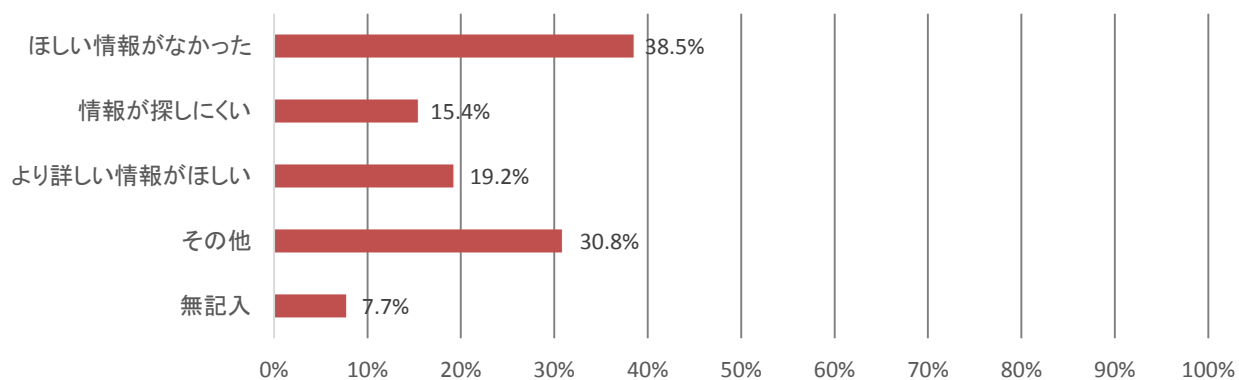


●子育てタウン（子育てに関する行政サービス情報ガイド）についてお聞きします。

問24 子育てタウンの情報を利用したことはありますか。



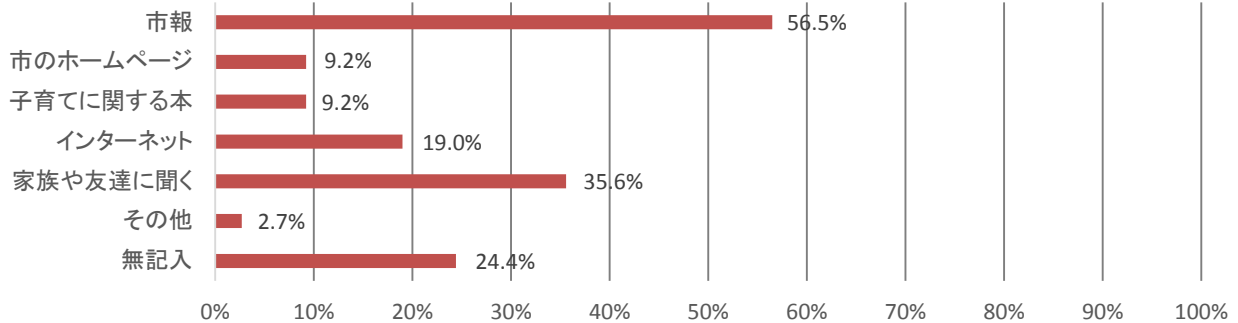
問25 問24で「2、いいえ」と回答した方にお聞きします。  
それはなぜですか。当てはまるものを全て選んでください。



問19にもあるように、子育てタウン情報を知っている方は5.0%と少なく、知っていても利用したことのない方が問24で示されているように51.0%になっています。  
理由としては「ほしい情報がなかった」が38.5%となっています。  
提供する情報の内容をさらに検討する必要があると考えます。

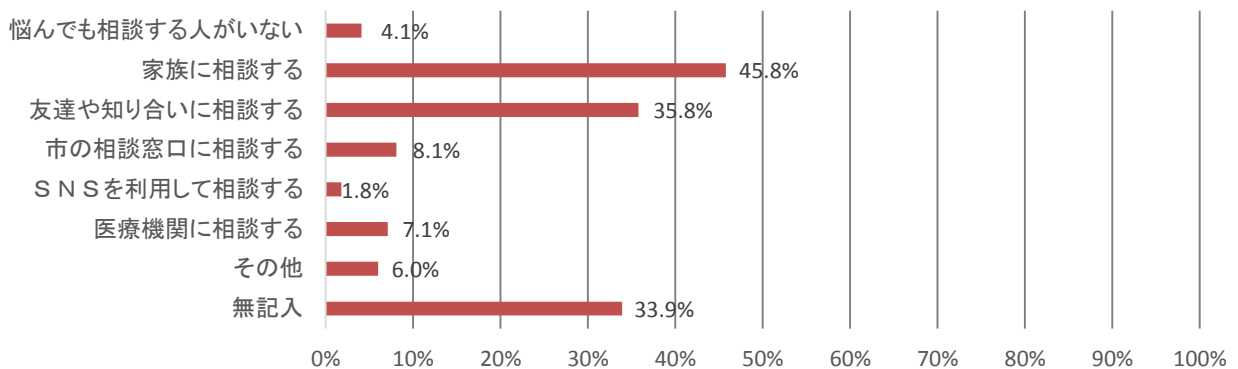
●子育て支援についてお聞きします。

問 2 6 子育てに関する情報は何かから入手しますか。  
当てはまるものを全て選んでください。



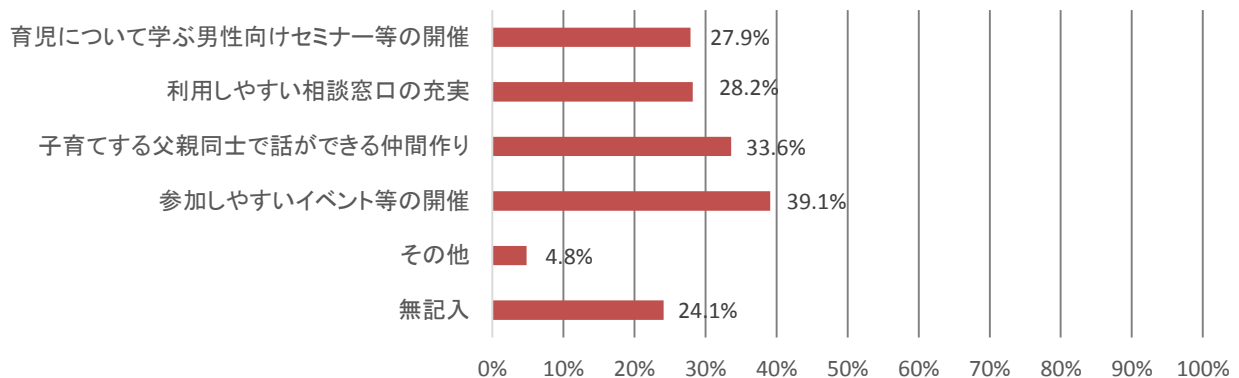
子育てに関する情報は、「市報」56.5%に次いで「家族や友達に聞く」35.6%となっており、市報から情報を得ている方が最も多いことがうかがえます。

問 2 7 子育てに関する悩みや困ったことの相談は誰に（どこに）していますか。  
当てはまるものを全て選んでください。



子育てに関する悩みや困ったときの相談先については、「家族に相談する」45.8%、「友達や知り合いに相談する」35.8%となっており、身近な人に相談していることがうかがえます。一方「悩んでも相談する人がいない」と回答した方が4.1%おり、誰にも相談できずにいる方に対する相談窓口の周知や、相談しやすい体制作りが必要であると考えます。

問 2 8 男性が子育てに参加しやすくするためには、どのような取り組みをしたらよいと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。



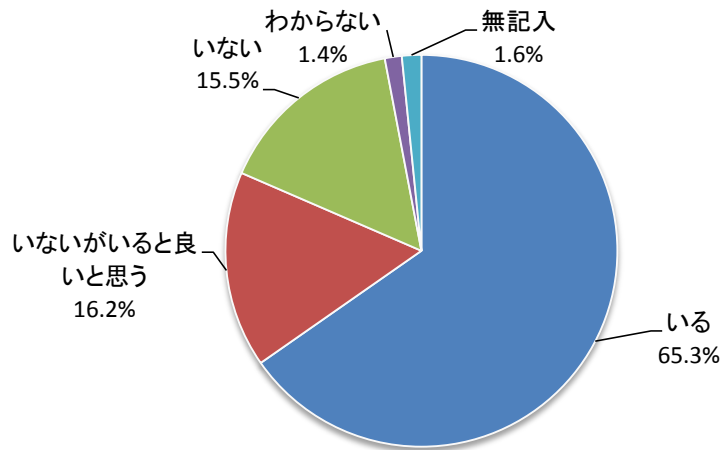
男性が子育てに参加しやすくするためには、「参加しやすいイベント等の開催」が39.1%と最も多く、次いで「子育てする父親同士で話ができる仲間作り」が33.6%となっています。様々な取り組みをすることで、父親の育児参加を期待できることがうかがえます。

また、「その他」では社会や職場の意識改革といった回答もありました。

## 4 地域包括ケアについて

### I 地域医療（かかりつけ医）についてお聞きします

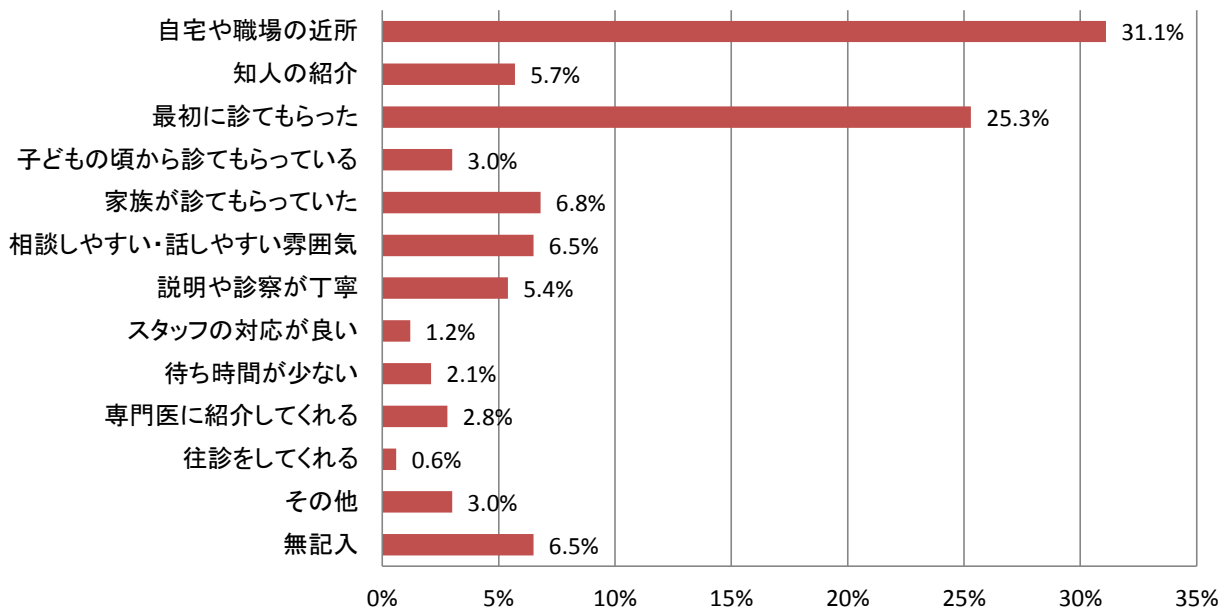
問 29 あなたにはかかりつけ医がいますか。1つ選んでください。



「いる」と答えた方が65.3%となっており、半数以上の市民の方がかかりつけ医を持っていることが分かりました。

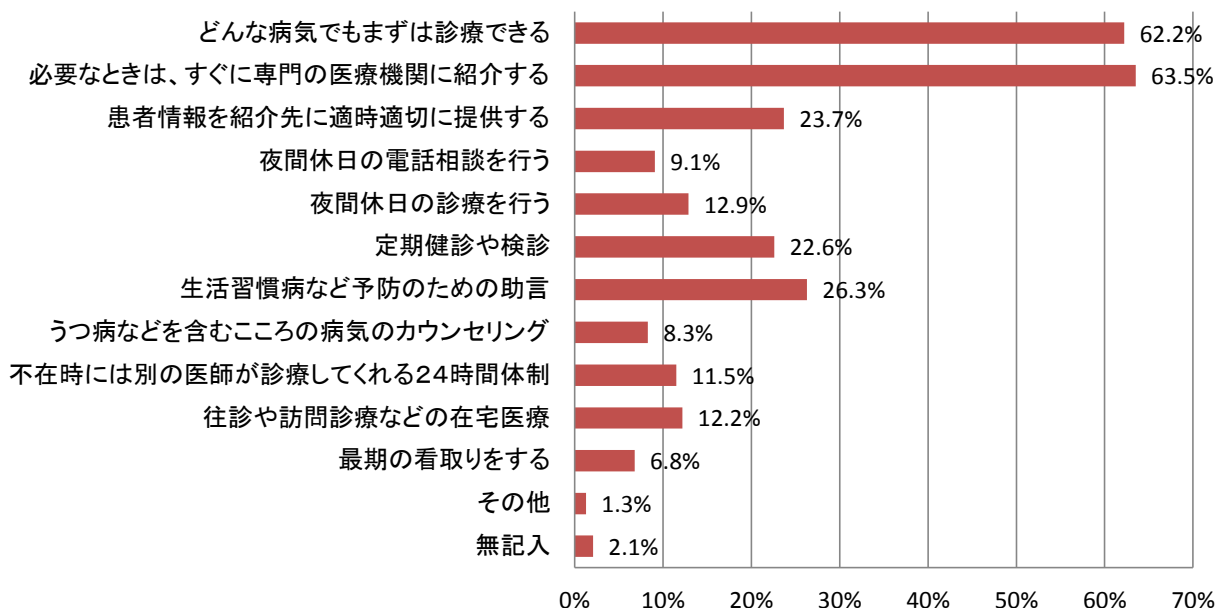
その一方で、「いないが、いると良いと思う」「いない」と答えた方が31.7%となっており、身近な地域で日常的な医療を受けたり、健康の相談等ができる医師として、かかりつけ医を持つことの必要性について、市民の方に分かりやすく普及・定着を図る必要があると考えます。

問 30 問 29 で「1. いる」と回答した方にお聞きします。  
あなたはどのようにしてかかりつけ医を決めましたか。1つ選んでください。



「自宅や職場の近所」と答えた方が31.1%で最も多く、次いで「最初に診てもらった」が25.3%となっており、利便性の良さや初診の印象がかかりつけ医を決める際に重視されている傾向がうかがえます。

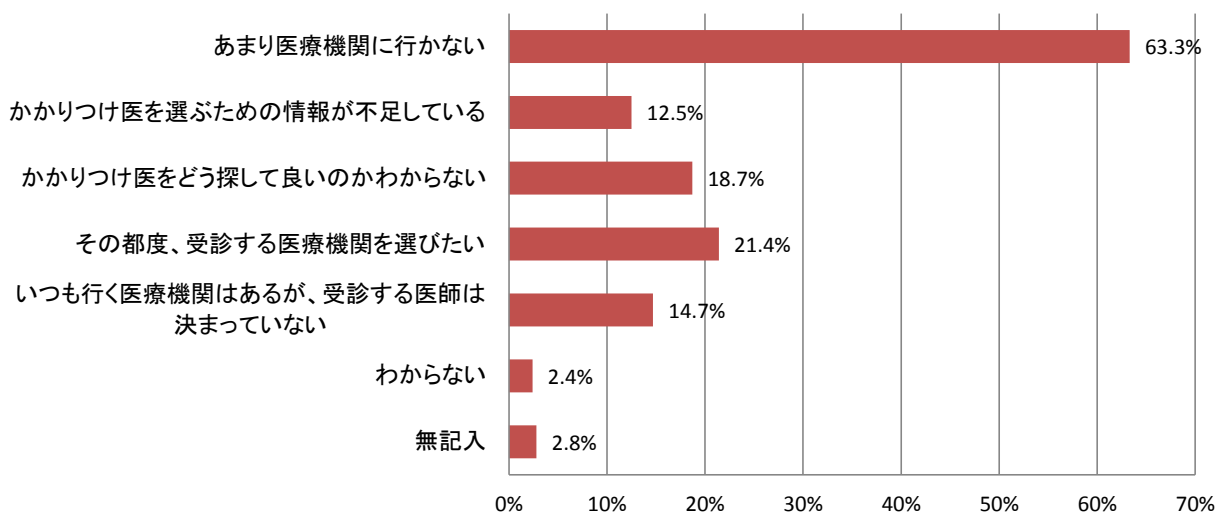
問3 1 同じく、問2 9で「1. いる」と回答した方にお聞きします。  
 あなたはかかりつけ医にどのような医療や体制を望んでいますか。  
 当てはまるものを全て選んでください。



かかりつけ医に望む医療や体制については、「必要なときは、すぐに専門の医療機関に紹介する」と答えた方が63.5%と最も多く、診療所と病院など医療機関相互や、保健・医療・福祉における連携体制の強化が必要であると考えられます。

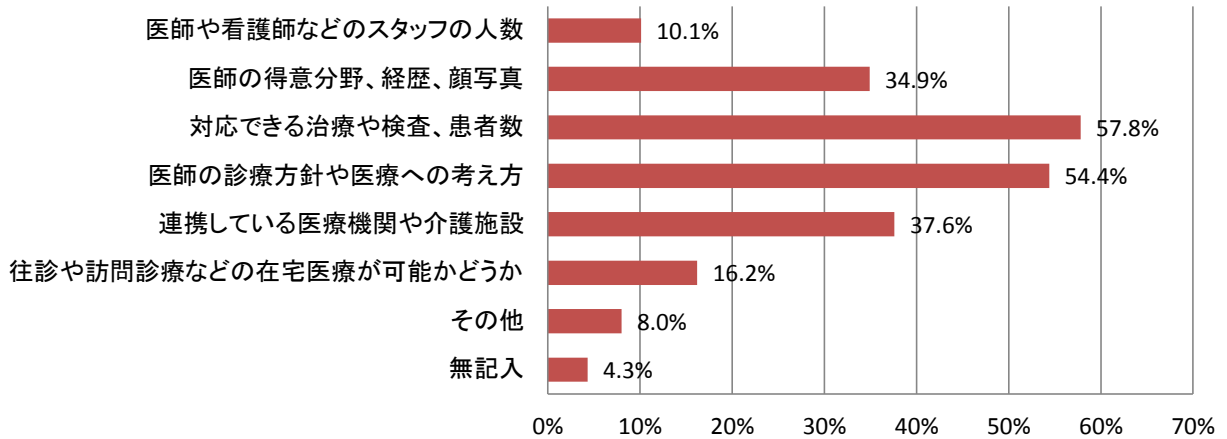
また、「どんな病気でもまずは診療できる」（62.2%）、「生活習慣病など予防のための助言」（26.3%）、「定期健診や検診」（22.6%）という回答も多く、幅広い診療や予防などの健康管理へのニーズが高いことがうかがえます。

問3 2 問2 9で「2. いないがいると良いと思う」「3. いない」と回答した方にお聞きします。  
 あなたにかかりつけ医がいないのはどうしてですか。当てはまるものを全て選んでください。



かかりつけ医がいない理由は、「あまり医療機関に行かない」が63.3%と最も多く、次いで「その都度、受診する医療機関を選びたい」が21.4%となっており、かかりつけ医がいない人の多くが現時点では必要性を感じていないことがうかがえます。

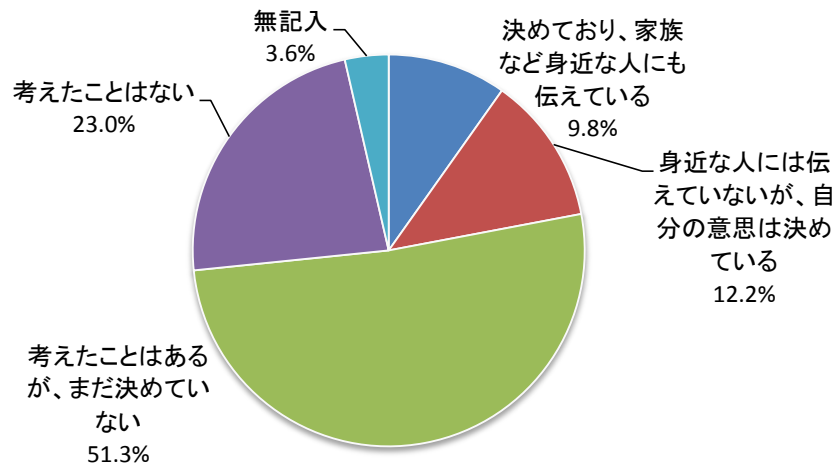
問33 同じく、問29で「2. いないがいると良いと思う」「3. いない」と回答した方にお聞きします。ご自身のかかりつけ医を探す場合、どのような情報が役立つと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。



かかりつけ医を探す際に役立つと思う情報については、「対応できる治療や検査、患者数」（57.8%）、「医師の診療方針や医療への考え方」（54.4%）、「連携している医療機関や介護施設」（37.6%）、「医師の得意分野、経歴、顔写真」（34.9%）が上位の回答となっており、このような情報を入手しやすくすることが、かかりつけ医の普及促進につながると考えられます。市報の活用、医療資源リストやマップの作成、ホームページによる情報発信等により、医療機関の持つ医療機能の情報を市民に分かりやすく提供することが必要であると考えます。

## II 終末期（人生の最期の迎え方）についてお聞きします

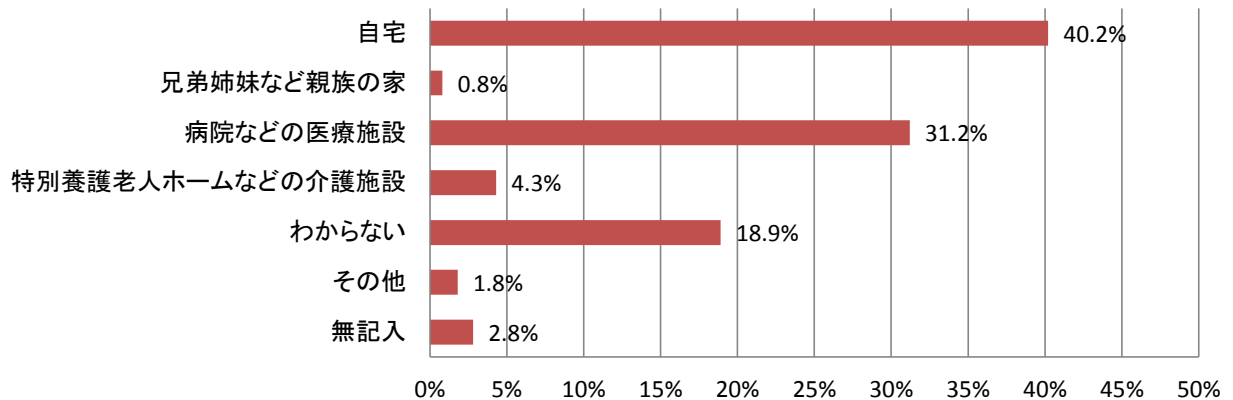
問34 あなたは人生の最期の過ごし方について考えたことがありますか。1つ選んでください。



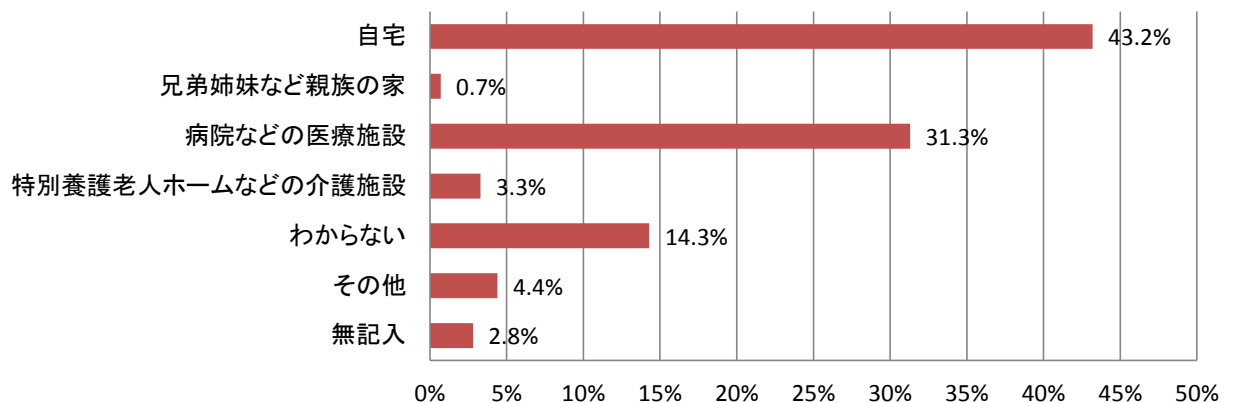
人生の最期の過ごし方について、「考えたことはあるが、まだ決めていない」と答えた方が51.3%と最も多く、「身近な人には伝えていないが、自分の意思は決めている」（12.2%）、「決めており、家族など身近な人にも伝えている」（9.8%）も含めると、市民の4人に3人が人生の最終段階に対する関心を持っていることがうかがえます。

また、その一方で、「考えたことはない」と答えた方が23.0%となっており、それぞれのライフステージに適した情報を提供すること等により、市民が主体的に考えることができる機会を確保することが必要であると考えます。

問35 万一、あなたが治る見込みがない病気になった場合、あなたは最期をどこで迎えたいですか。1つ選んでください。

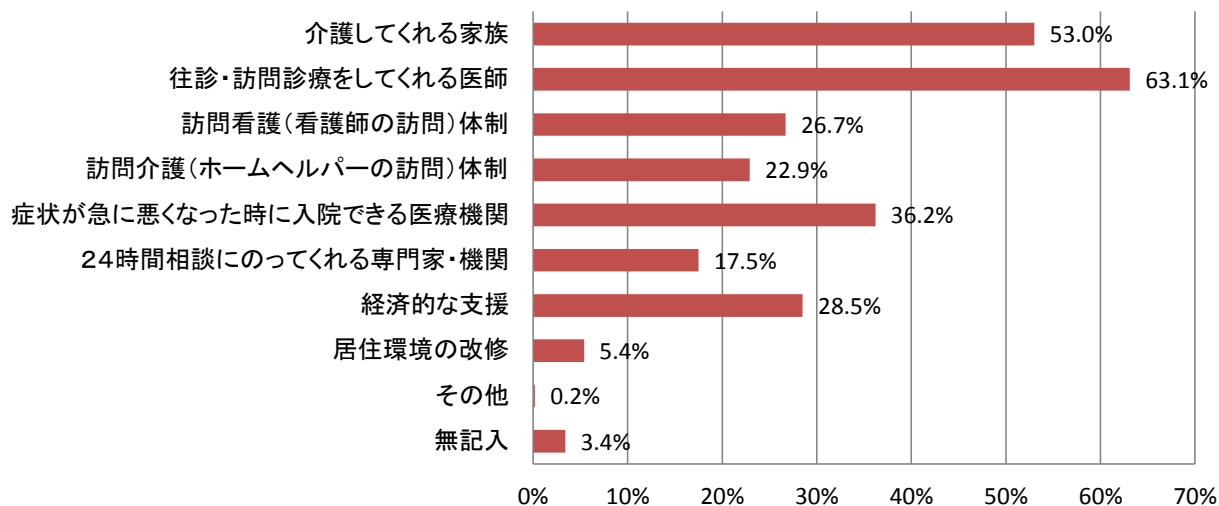


問36 万一、あなたのご家族が治る見込みがない病気になった場合、あなたは最期をどこで迎えさせてあげたいですか。1つ選んでください。



自身についても、家族についても、「自宅」で最期を迎えたい（迎えさせたい）と考えている方が約4割で最も多く、次いで「病院などの医療施設」が約3割となっています。住み慣れた環境でできるだけ長く過ごせるよう、また望む人は自宅での看取りも選択肢になるよう、在宅医療を推進していく必要があると考えます。

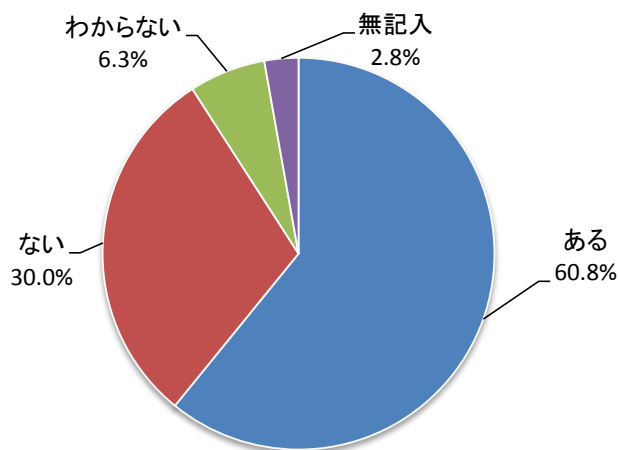
問37 問35で「1. 自宅」と回答した方にお聞きします。  
 自宅で最期まで療養するために必要だと思うことを3つ選んでください。



自宅で最期まで療養するために必要だと思うことは、「往診・訪問診療をしてくれる医師」(63.1%)、「介護してくれる家族」(53.0%)、「症状が急に悪くなった時に入院できる医療機関」(36.2%)が上位の回答となっており、こうしたニーズに応える提供体制の整備が求められていることがうかがえます。

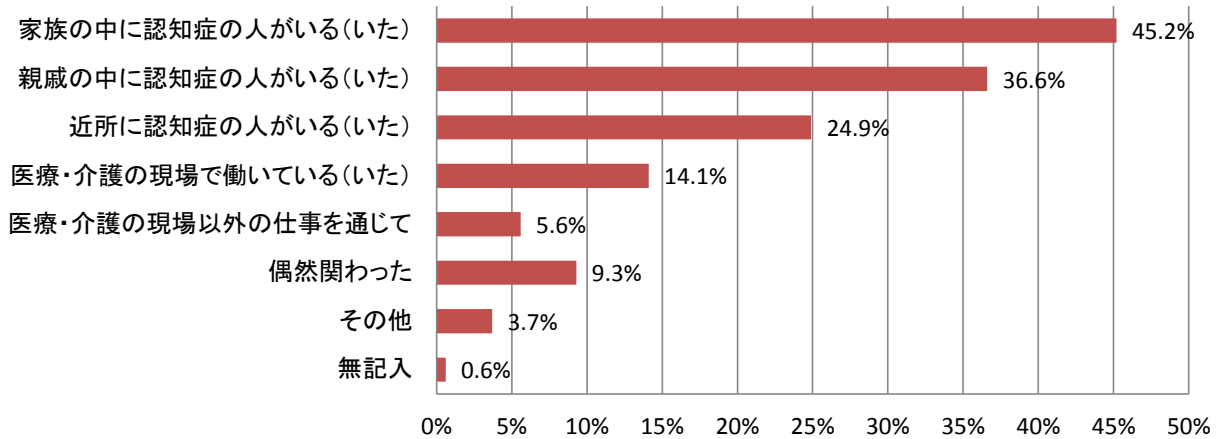
### Ⅲ 認知症についてお聞きします

問38 あなたは今まで認知症の人や認知症と思われる人と会話や声掛けなど関わりを持ったことがありますか。1つ選んでください。



認知症の人との関わりについて、「ある」と答えた方が60.8%となっており、市民の2人に1人は認知症の人や認知症と思われる人と接点があったことが分かりました。

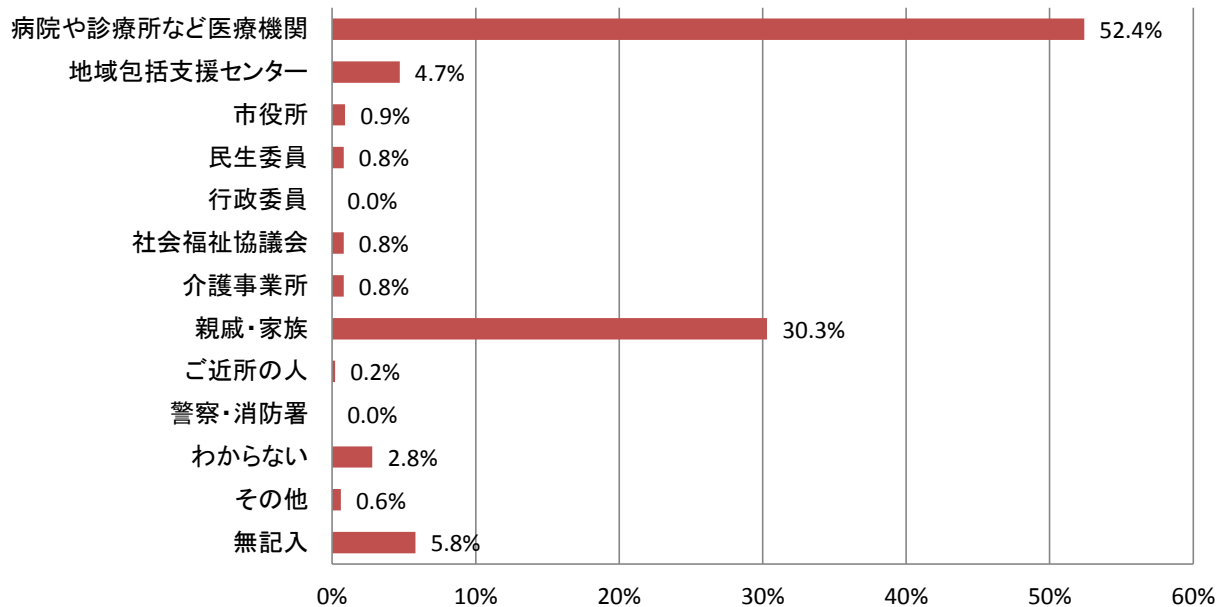
問39 問38で「1. ある」と回答した方にお聞きします。  
 あなたが認知症と思われる人と接した場面について、当てはまるものを全て選んでください。



認知症と思われる人と接した場面について、「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が45.2%、「親戚の中に認知症の人がいる(いた)」が36.6%と高く、身内に認知症の人がいる(いた)割合が高いことが分かりました。

また、次いで「近所に認知症の人がいる(いた)」が24.9%と高くなっており、家族、親戚と合わせると、認知症の人との接点は、普段付き合いのある身近にあることがうかがえます。

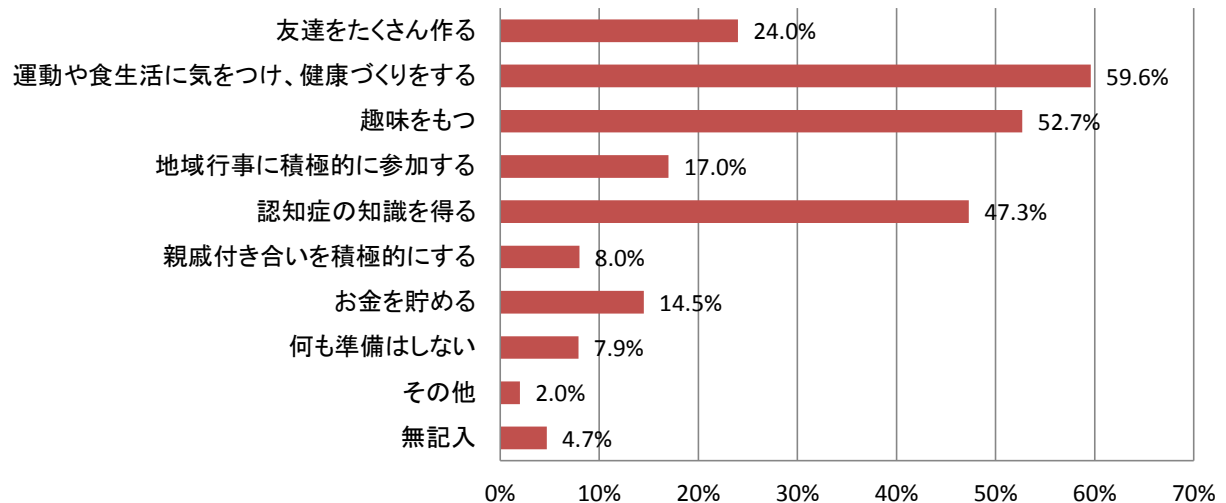
問40 あなたご自身やあなたのご家族、知人等が認知症の疑いがあると感じた場合、あなたは最初に誰に相談しますか。1つ選んでください。



最初の相談先について、「病院や診療所など医療機関」と答えた方が52.4%と、他の選択肢に大きく差をつけ最も多くなっています。次いで「親戚・家族」と答えた方が30.3%となっており、医療機関以外の相談先として、身内に相談しようと考えている方が多いことが分かりました。



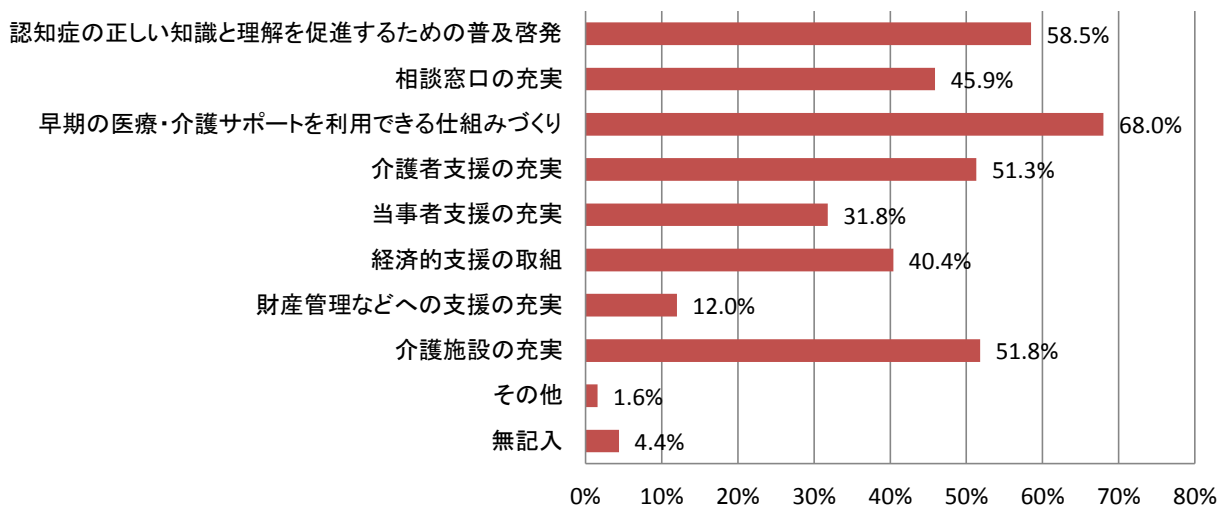
問 4 1 認知症になった時の備えとして、あなたはどんな取り組みをしたいですか。  
当てはまるものを全て選んでください。



認知症になった時の備えとして、「運動や食生活に気をつけ、健康づくりをする」と答えた方が59.6%と最も多く、次いで「趣味をもつ」が52.7%となっており、心身の健康管理をし、悪化しないように気を付けたいと思っている方が多いことがうかがえます。

また、「認知症の知識を得る」と答えた方も47.3%と多く、症状の進行や心構えに対する関心が高いことが分かりました。

問 4 2 今後増加が予想される認知症の人を地域で支える取り組みとして、必要だと思うものを全  
て選んでください。

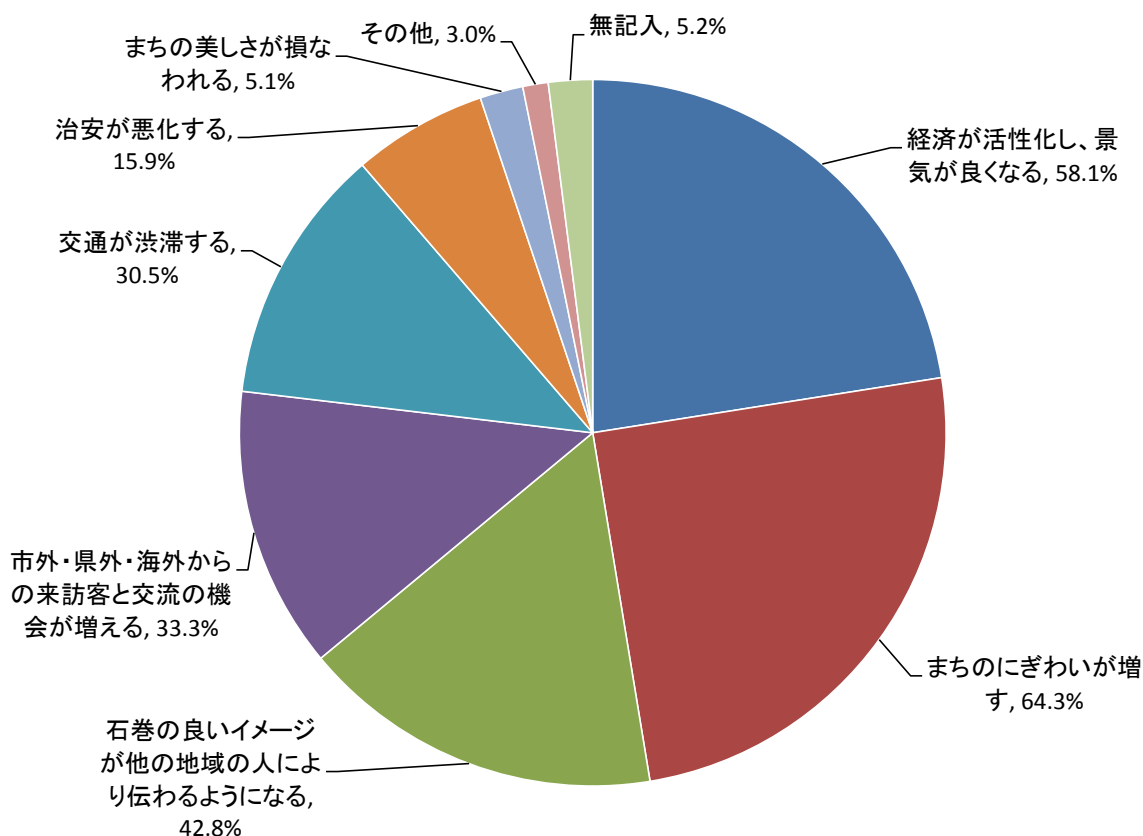


認知症の人を地域で支えるために必要だと思う取り組みとして、最も回答が多かったのは、「早期の医療・介護サポートを利用できる仕組みづくり」で68.0%でした。また、「認知症の正しい知識と理解を促進するための普及啓発」が58.5%で、本人や周囲の理解が大切であると捉えている方が多いことがわかりました。

さらに、「介護施設の充実」が51.8%となっており、自宅で生活できなくなった時の住まいが重視されていることがうかがえます。

## 5 観光に関する意識について

問43 観光客が石巻に多く訪れるようになることで、あなたの生活に変化があるとしたら、どのようなことが思い浮かびますか。当てはまるものを全て選んでください。(〇は1つ)

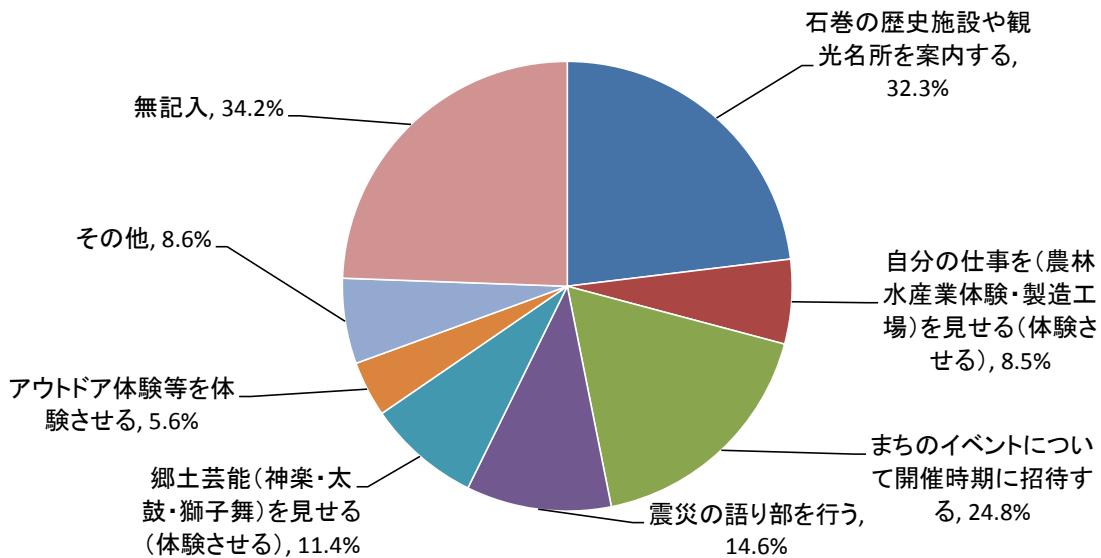


その他 (3.0%) の内容

項目	集計
・良さも悪い面も知ってもらえる 復興の遅れ！海辺の人口流出！	1
・市内のシャッター通りがなくなればよい	2
・観光都市としての自覚・競争心が芽生えるので、良い効果が生まれる。	1
・観光だけにたよらない、産業の発展を考える	1
・石巻の海産物が一番おいしいと世に広まる	1
・治安が悪くなる、交通渋滞が増える	4
・石巻の悪いイメージが伝わる	1
・観光できる場所が少ない、受入体制が未成熟	4
・市中心部は活性する、周りは蚊帳の外になりそう	1
・石巻を伝えるには外国語の習得が必要	1
・特に変化なし	10
・わからない	4
計	31

観光客の増加が及ぼす影響として、交流人口の増加によるにぎわいの創出、地域経済の活性化、交流機会の増加等ポジティブな面のイメージを持っている市民が多いという結果が出ました。しかしながら、交通の渋滞や、治安の悪化、景観を損ねるといった意見も一部見受けられる結果となっています。

問 4 4 あなた自身が観光客をおもてなしできる素材はありますか（知っていますか）。  
当てはまるものを全て選んでください。

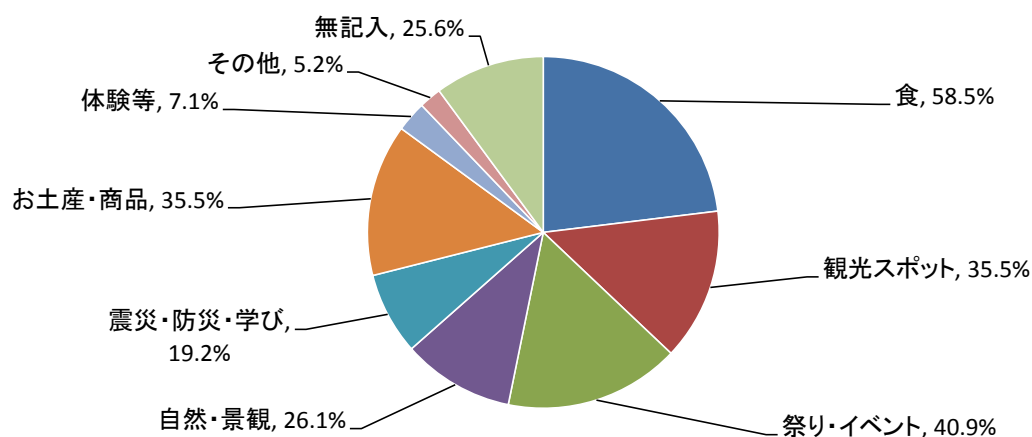


その他 (8.6%) の内容

項目	集計
・資格を活かした体験メニューの指導	1
・言葉が話せる、通訳できる	2
・食事やお酒のお供をする、美味しいものや、お店を紹介する	8
・寺のイベント	1
・自然に触れる	1
・震災の話聞かせる	1
・観光客受入れの心構えを備えている	1
・人脈作り	1
・特になし	62
計	78

市民ひとりひとりが観光客に対してのおもてなしをする手段を有しているかどうかという設問でしたが、回答総数のうち、石巻市の歴史施設、観光名所の案内またはイベントの開催時期に招待するなどが多数を占める結果となりました。震災以前には見受けられなかったものとして、震災の語り部を行うことが150名（14.6%）回答したことが特徴的な結果となりました。また、無記入が総数の4分の1程度の結果となり、おもてなしの術を持ち合わせていない方も多数いると想像される結果となりました。

問 4 5 あなたは、市外からあなたの友人や知人が訪ねてきたら、石巻の何をおすすめしますか。当てはまるものを全て選んで、具体的に記載してください。



食 (58.5%) の内容

項目	集計
・居酒屋、飲食店	11
・海鮮、お寿司	431
・いしのまき焼きそば	36
・いちご	2
・おいしい食材	11
・かまぼこ	25
・くずかけ	1
・お米	19
・ラーメン	4
・ずんだもち	2
・お菓子	2
・牛タン	2
・日本酒	1
・知らない	1
計	548

観光スポット (35.5%) の内容

項目	集計
・サンファン	72
・石ノ森萬画館	71
・牡鹿半島	7
・シーパルピア女川	1
・つり石神社	1
・はまぐり堂	1
・上品の郷、ふたごの湯	2
・海	6
・金華山	22
・日和山	118
・田代島、マンガアイランド	4
・その他	28
計	333

祭り・イベント (40.9%) の内容

項目	集計
・川開き祭り、花火	363
・はねこ踊り	13
・リボンアートフェスティバル	1
・サンファン祭り	1
・トリコローレ音楽祭	1
・旭山	1
・鯨祭り	3
・神楽	4
・大漁まつり	1
・その他	11
計	399

自然・景観（26.1%）の内容

項目	集計
・牡鹿半島、コバルトライン	35
・サンファン	3
・トヤケ森山	4
・旭山公園	3
・海	18
・金華山	14
・上品山	11
・日和山	105
・北上川	10
・牧山	8
・網地島、田代島	9
・その他	27
計	247

震災・防災・学び（19.2%）の内容

項目	集計
・大川小	21
・南浜町、門脇小	29
・日和山	25
・被災地全般	37
・かたりべ、被災の状況	42
・まちづくり情報交流館などの施設	4
・その他	12
計	170

お土産・商品（35.5%）の内容

項目	集計
・海産物、水産加工品	320
・石巻こけし	1
・石巻やきそば	4
・地酒	6
・桃太郎だんご	2
・米	6
・雄勝すずり	1
・その他	4
計	344

体験等（7.1%）の内容

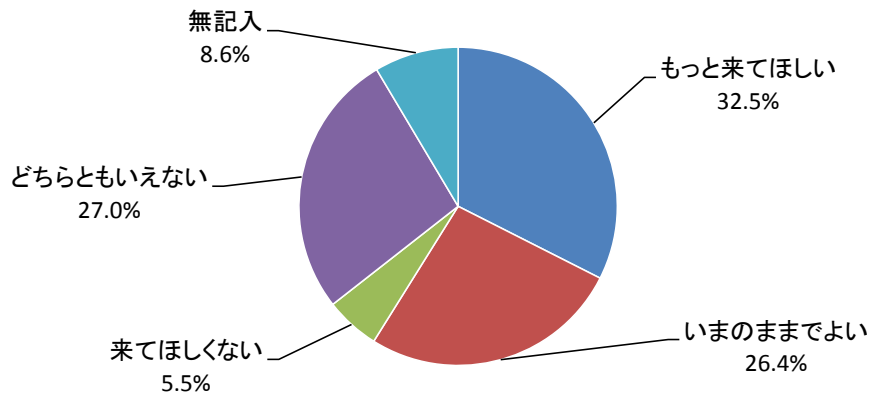
項目	集計
・震災の体験談	19
・漁業体験、農業体験	10
・カヤック、釣り、アクティビティ	18
・いしのまきに恋して	1
・手作り体験メニュー	4
・工場見学	1
・その他	10
計	63

その他（5.2%）の内容

項目	集計
・オススメなし、わからない	27
・不明回答	2
・その他	19
計	48

市外からの友人知人に対して勧める石巻の特色・特徴は何かという設問でしたが、「食」が一番多く、その次に多かったのが「観光スポット」と「お土産・商品」という結果でした。世界三大漁場のひとつ金華山沖を有する本市の特徴が出た傾向が見えました。また、問44に引き続き「震災・防災・学び」が198名（19.2%）の回答ということで、震災後の石巻の特徴を表す結果となりました。

問46 あなたは、今より多くの外国人観光客に石巻にきてほしいと思いますか。  
当てはまるものを1つ選んでください。



「もっと来てほしい」が全体の32.5%、「いまのままでよい」と「来てほしくない」、「どちらともいえない」を合わせた割合が58.9%となり、どちらかと言うと外国人観光客の受け入れに対しては消極的な回答が上回る結果となりました。

問47 問46 で選択した回答の理由をお聞かせください

「もっと来てほしい」

- ・経済が活性化する。
- ・グローバル時代であり、外人と違和感なく交流すべきである
- ・海外の人々にも震災の復興とつめあとを見てほしい

「いまのままでよい」

- ・あまり外国人観光客を見かけない
- ・あまり多くなると治安が悪くなるかと思うので

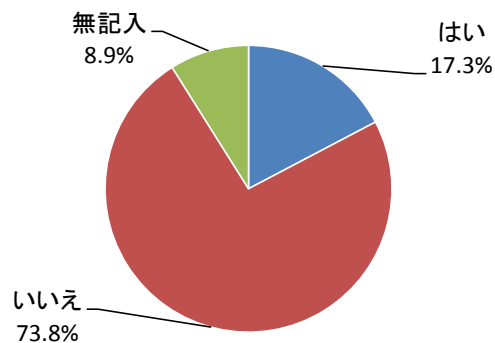
「来てほしくない」

- ・マナーと治安が不安
- ・まだ受入れが整っていない
- ・おもてなしが十分にできない
- ・外国語がわからないから

「どちらともいえない」

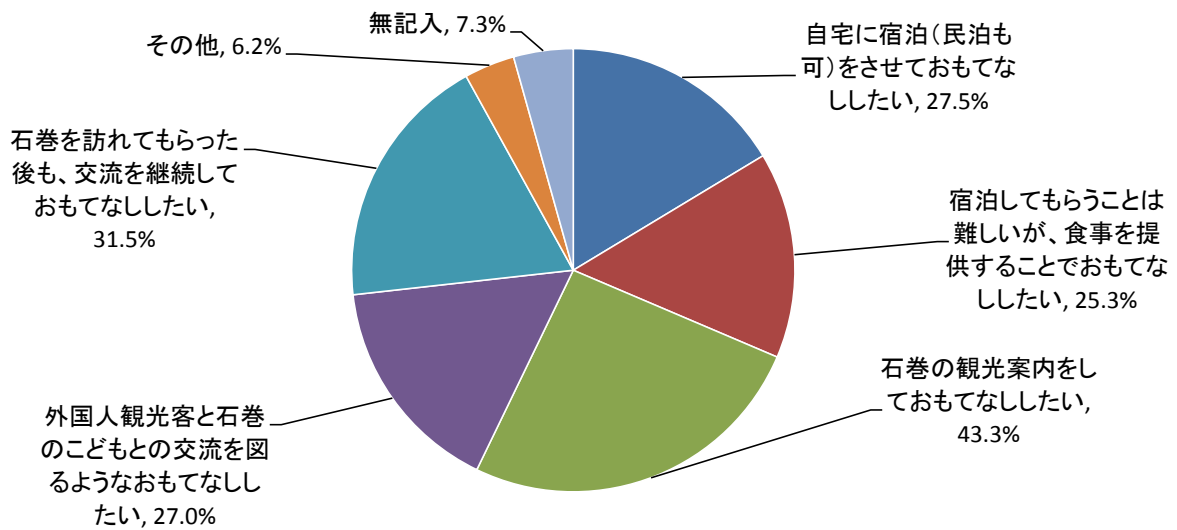
- ・よく分からないため
- ・外国人といってもいろいろ

問48 あなたは、石巻市を訪れた外国人観光客を、あなた自身でおもてなししたいと思いますか。



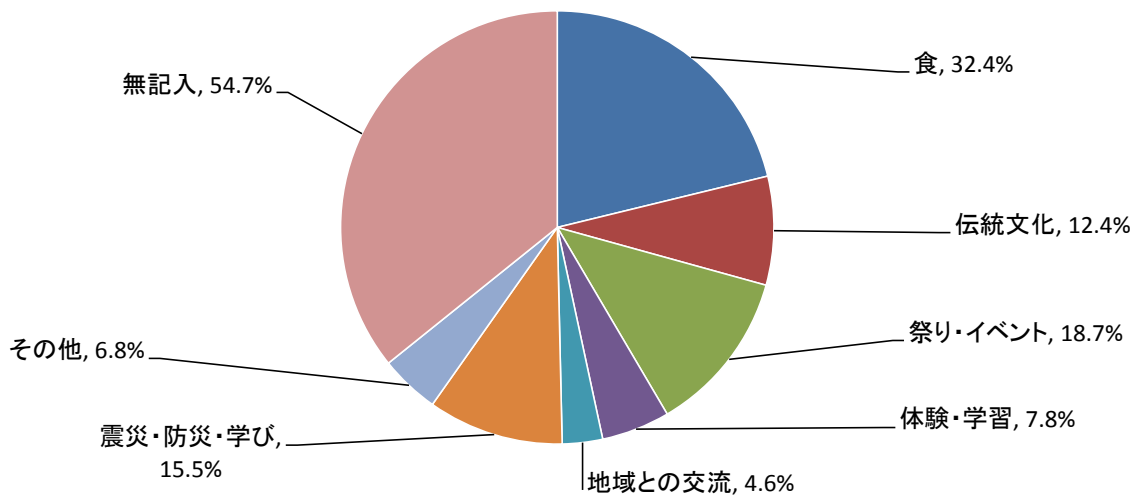
本市を訪れた外国人を、自身でおもてなししたいと考えるかという設問ですが、「いいえ」が73.8%と大部分を占める結果となり、市民個人が外国人観光客をおもてなししたいという気持ちが少ない結果が出ました。

問49 問48で「1はい」を選択した方にお聞きします。  
 そのおもてなしの方法について当てはまるものを全て選んでください。



問48で「はい」を選択した方にその方法を問う設問ですが、「石巻の観光案内」が一番多い回答で、「交流を継続する」、「自宅に宿泊させる」が次いで多い回答となりました。どの項目も万遍なく回答があり、外国人旅行者へのおもてなし手法については多様な提供が可能と思われる結果が出ました。

問50 外国人観光客に対して、石巻のどのようなところが魅力・強みになると思いますか。又はどんなものを観光資源として発信していく必要があると思いますか。当てはまるものを全て選んで、具体的に記載してください。



食 (32.4%) の内容

項目	集計
・英語のメニュー作成	1
・海鮮、お寿司	246
・いしのまき焼きそば	5
・米、農産物	9
・和食	10
・ハラル食を提供できるようにする	1
・知らない	1
・その他	2
計	275

伝統文化（12.4%）の内容

項目	集計
・みこし、獅子振り、神楽、太鼓	45
・サンファン	7
・硯	9
・どんと祭り	1
・はねこおどり	6
・着物、下駄、浴衣等の日本文化	4
・花火	2
・祭り	5
・その他	13
計	92

祭り・イベント（18.7%）の内容

項目	集計
・川開き祭り、花火	140
・はねこ踊り	6
・リボンアートフェスティバル	3
・サンファン祭り	4
・ツールド東北	1
・神楽、獅子舞、太鼓	2
・その他	14
・大漁まつり	1
計	171

体験・学習（7.8%）の内容

項目	集計
・震災の体験談	11
・漁業体験、農業体験	36
・カヤック、釣り、アクティビティ	3
・いしのまきに恋して	1
・手作り体験メニュー	3
・歴史、文化、観光体験	16
・その他	2
計	72

地域との交流（4.6%）の内容

項目	集計
・被災者との交流	7
・漁業体験、農業体験	10
・盆踊り	2
・地域イベントへの参加	7
・年配者や子どもとの交流	4
・その他	6
計	36

震災・防災・学び（15.5%）の内容

項目	集計
・大川小	8
・南浜町、門脇小	3
・日和山	3
・被災地全般	19
・かたりべ、被災の状況	68
・まちづくり情報交流館などの施設	5
・その他	5
・外国語の対応・体制	2
計	113



その他（6.8%）の内容

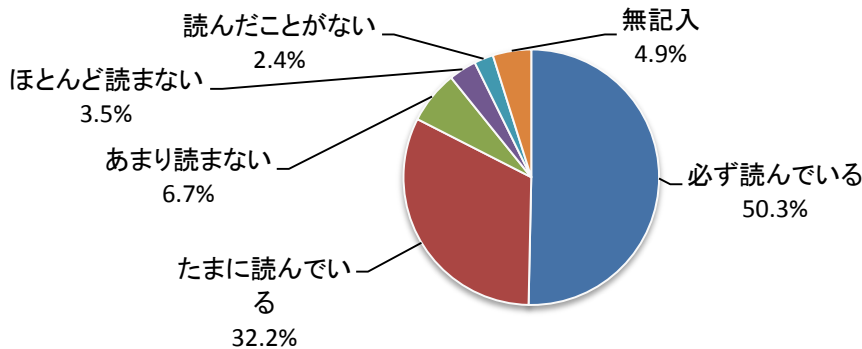
項目	集計
・オススメなし、わからない	32
・インターネット（SNS含）を通して世界中の人々への情報発信	2
・スポーツ	1
・仮設住宅	1
・その他	29
	計 65

外国人観光客に対して石巻の魅力・強みについての設問ですが、一番多かった回答が「食」ということで、問4 5同様世界三大漁場のひとつ金華山沖を有する本市の特徴が出た傾向が見えました。また、「震災・防災・学び」が160名（15.5%）で3番目に多い回答があり、外国人観光客の誘客に対して効果的なコンテンツのひとつであるという結果が見えました。

## 6 広報事業について

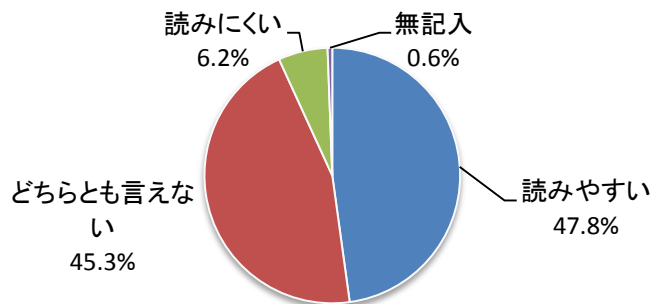
I 「市報いしのまき」についてお聞きします。

問51 「市報いしのまき」を読んでいますか。1つ選んでください。



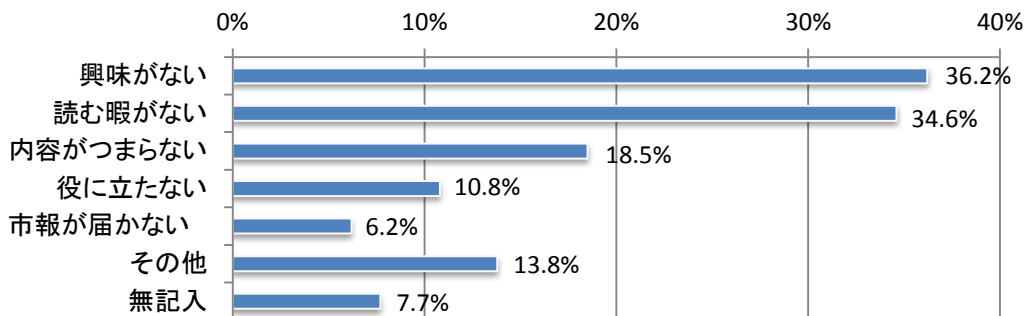
「必ず読んでいる」と「たまに読んでいる」を合わせると8割以上が市報を目にしていることになり、市政への関心と積極的に情報を取り入れようとしていることがうかがえます。

問52 問51で「1.必ず読んでいる」「2.たまに読んでいる」と回答した方にお聞きします。「市報いしのまき」は読みやすいですか。1つ選んでください。



「読みやすい（47.8%）」が最も多いものの、過半数に満たない結果となっていることから、さらに読みやすい紙面作りが必要であると考えられます。

問53 問51で「3.あまり読まない」「4.ほとんど読まない」「5.読んだことがない」と回答した方にお聞きします。その理由はなんですか。当てはまるものを全て選んでください。



「興味がない（36.2%）」が最も多く、次いで「読む暇がない（34.6%）」が多い結果となりました。興味が沸き読みたくなるような内容の掲載及び見せ方を心がけ、また、行政情報等については、時間をかけずに読むことができる簡潔な記事となるように原稿の精査を十分に行う必要があると考えられます。